E-Post Mail Server Enterprise (x64)

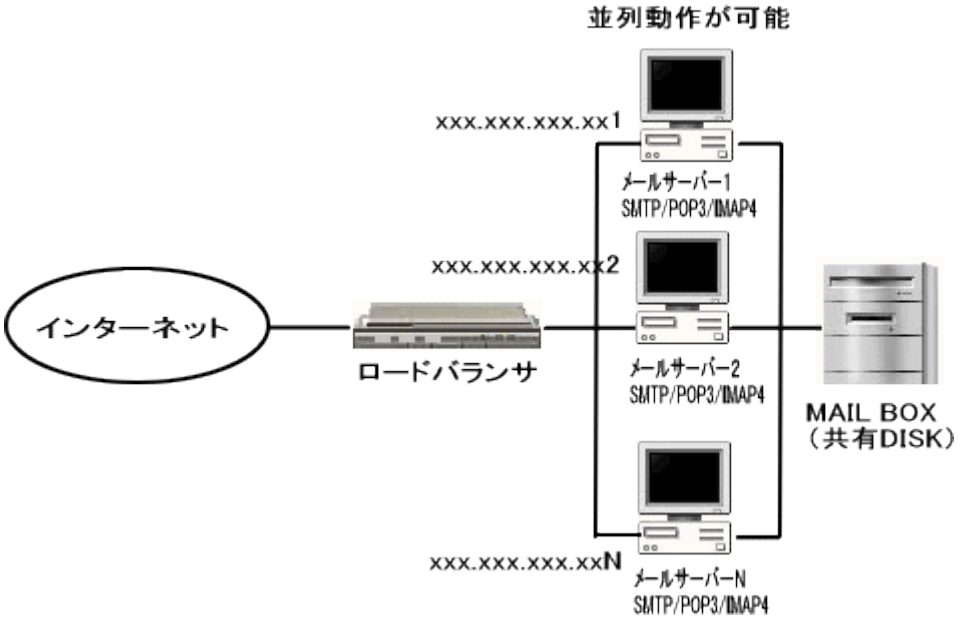
ユーザーズガイド

（第3．5c版）

はじめに

このたびは、「E-Post Mail Server Enterprise」をお買い上げいただきまして誠に有難うございました。
「E-Post Mail Server Enterprise」は、並列化したハードウエア構成のコンピュータに個々にインストールするだけでメールシステムのダイレクトなクラスタリング（フェールオーバー・負荷分散・配送性能の増強）を実現することが可能な、SOHOから大企業まで幅広い分野をローコストでカバーすることの可能な高性能メールサーバーです。

構成イメージ



注意） 本マニュアルは、お買い上げいただいた製品をお使いになるコンピュータにインストールする方法や、「E-Post Mail Server」の各設定について説明をしています。本マニュアルに掲載されていない「E-Post Mail Server」の機能については、オンラインヘルプおよびインターネットサイトを、ご参照ください。

本ガイドをお読みになる前に

本ガイドをお読みになる前に、お使いのコンピュータで Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012 のいずれかが正常に動作し、TCP/IP プロトコルが正しく機能していることをご確認ください。

ソフトウェア使用許諾契約書

重要:本ソフトウェアは、以下条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。
本ソフトウェアを使用された場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上ご使用ください。

本ソフトウェアは、著作権法および著作権に関する条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびに条約によって保護されています。本ソフトウェアは許諾されるもので、販売されるものではありません。

第1条 ライセンスの許諾

1. お客様は、発行された1ライセンスにつき、ご使用になるコンピュータのOS1台に対し、本ソフトウェアのコピーをインストールし使用する権利を許諾します。

第2条 複製の禁止

1. お客様は、バックアップの目的で本ソフトウェアの複製物を1個に限り作成することが出来ます。
2. お客様は、本ソフトウェアの複製を前項以外の目的で行うことは出来ません。お客様が本条項に違反した場合、お客様の作成した複製品の所有権は、イー・ポストに帰属するもとのし、イー・ポストは即時全複製品の引渡しをお客様に対して要求することが出来るものとします。

第3条 譲渡、貸与の禁止

1. お客様はイー・ポストの書面による事前の承認なしに、第 1 条に規定するライセンスの許諾を、譲渡(売買、贈与、交換)または貸与等の方法で第三者に提供することは出来ません。
2. お客様は本製品のレンタル、擬似レンタル行為、中古品取引を行うことは出来ません。

第4条 反社会的勢力との取引排除

1. 弊社は、自ら及び自らの役員・従業員が、反社会的勢力(暴力団、暴力団員、暴力団準構成員、暴力団関係企業・団体、総会屋、社会運動等標ぼうゴロ、その他反社会的勢力。以下総称して「反社会的勢力」という)でないことを保証するとともに、これらの反社会的勢力との関係を一切持たないことを保証します。
2. 弊社は、お客様が次の各号の一に該当する場合、催告することなく本契約を解除することができるものとします。なお、当該契約解除により損害が生じた場合であっても、お客様がその責を負うものとします。
(1)お客様またはお客様の役員・従業員が、反社会的勢力である場合。
(2)お客様またはお客様の役員・従業員が、反社会的勢力との関係を有していると認められる場合。
(3)お客様またはお客様の役員・従業員が、反社会的勢力に対して資金等を提供し、または便宜を供給するなど、反社会的勢力の運営維持に協力・関与していることが認められる場合。
3. 弊社は、前項各号を確認することを目的としてお客様の調査を行うことができるものとします。なお、弊社から調査を求められた場合、お客様はこれに協力するものとします。
4. お客様は、第2項各号のいずれかに該当し、またはそのおそれがあることが判明した場合、ただちにその旨を弊社に通知しなければならないものとします。

第5条 賠償請求

1. お客様が第 2 条または第 3 条に違反して本ソフトウェアの複製または譲渡、貸与等を行った場合、イー・ポストはお客様に対し、損害賠償として、本ソフトウェアの希望小売価格に複製回数を乗じて得た額の 3 倍に相当する金額を請求できるものとします。

第6条　期間

1. 本契約は本ソフトウェアをはじめてインストールしたときから効力を生ずるものとします。
2. お客様は、イー・ポストから提供された本ソフトウェア、説明書を含むイー・ポストからの提供物および複製物をすべて破棄し、その旨を証明する文書をイー・ポストに送付することにより本契約を終了させることができるものとします。

第7条　バージョンアップ

1. イー・ポストはお客様に予告無しに改良の為に本ソフトウェアの変更を行うことがあります。
2. イー・ポストは本ソフトウェアを改良した新しいバージョンのソフトウェア（以下「新バージョン」という）をお客様に対して有償または無償にて提供することができます。
3. バージョンアップキットの提供を受けたお客様は、本ソフトウェアライセンスの許諾その他の権利を失い、新バージョンについて新しい契約による権利を取得するものとします。

第8条　免責

1. イー・ポストは本ソフトウェアの使用により生じた損害に関していかなる責任も負わないものとします。

第9条　サポートの期間

1. 本製品の販売終了から1年経過した後は本ソフトウェアに関するイー・ポストのサポートは終了するものとします。
2. 新バージョンが発売された場合、本ソフトウェアは特別な理由により継続される場合を除き販売終了となります。本ソフトウェアに関するサポートも同様に販売終了から1年経過した後に終了するものとします。
3. 前2項の規定にかかわらず、サポートの終了後もイー・ポストの指定した受付期間内に限り、お客様は第6条のバージョンアップのサービスを受けることが出来るものとします。

第10条　ソフトウエェアの変更の禁止

1. お客様は、いかなる理由があっても本ソフトウェアの変更、改作、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルその他を行うことは出来ません。

第11条　管轄裁判所

1. お客様及びイー・ポストは本契約に関連して発生した紛争については東京地方裁判所を第一審の管轄裁判所とすることに合意します。

導入（インストール）

注意） インストールの作業は、管理者権限(Administrator)にてログインした状態で行って下さい。

事前に別のメールサービスが起動している場合は、該当サービスは停止させて下さい。

ネットワーク上の設定でメールシステムが使用するポート(SMTP/POP3/IMAP)が塞がれていないよう事前に確認してください。

Windows Vistaへの導入を行う場合。

Windows Vista では、Administratorアカウントであっても、User Account Control（UAC）が有効のままですと、Administratorアカウントでもサービス登録等の操作が行えません。

本製品を導入される場合は、この設定を解除してから導入を行って下さい。

Windows Vista での User Account Control（UAC）の解除の方法。

1.Administrator権限を持つアカウントでログインします。

2.コントロールパネル

→ クラッシック表示

→ ユーザアカウント

→ ユーザーアカウント制限の有効化または無効化

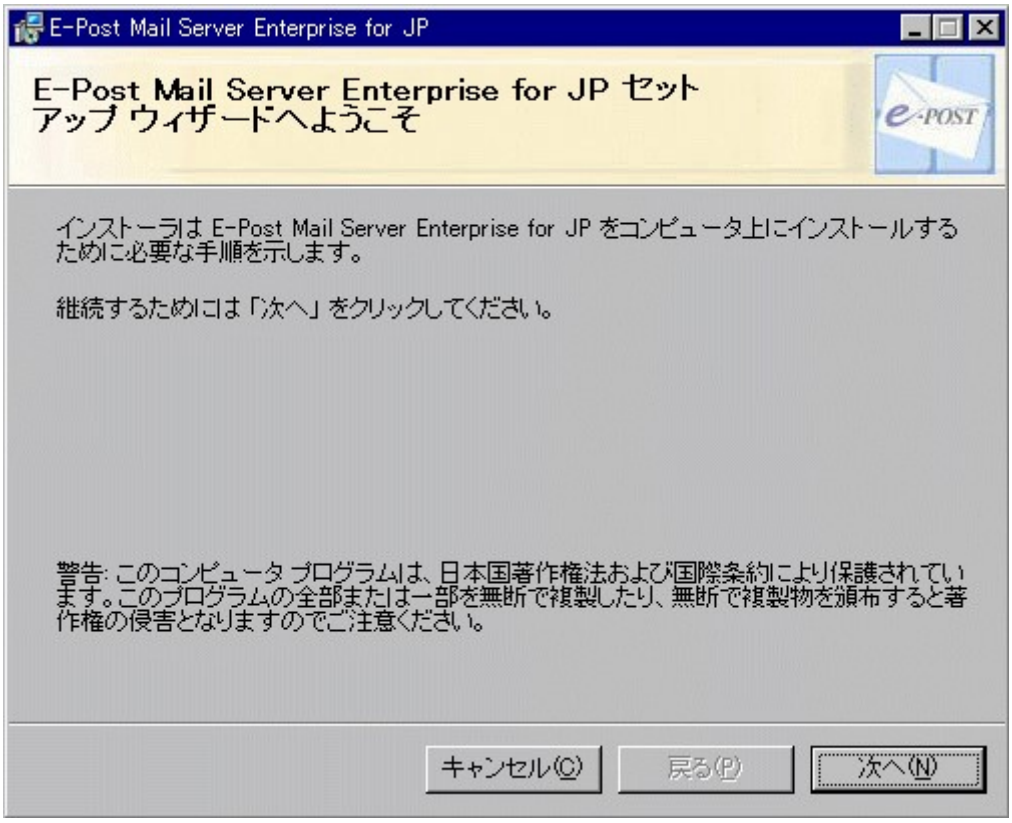
→ [ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってコンピュータの保護に役立たせる]のチェックをはずします。

設定を行った後、再起動します。

3.再起動後、再び、Administrator権限を持つアカウントでログインします。

1. インストールプログラムを実行する。

CDもしくは、ダウンロードした上記インストールプログラムを実行します。



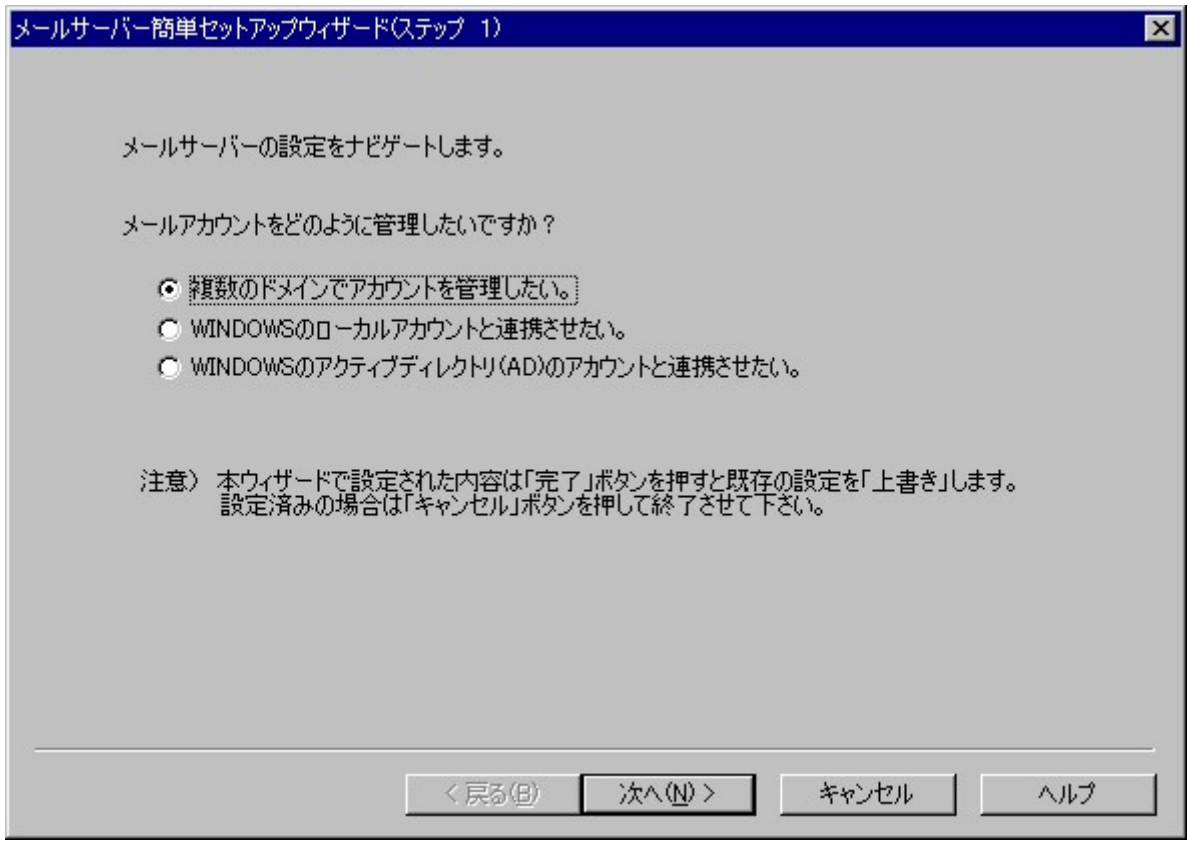
インストールが開始されますと上記ダイアログが表示されますのでインストール先を指定してインストールを行います。

2. 基本設定を行う。

インストールが完了するとディスクトップに「E-Post Mail Server for JP」アイコンが表示されますので、本アイコンをダブルクリック（実行）します。

はじめての実行の際、以下の設定ウィザードが表示されますので、アカウント管理方法、使用するDNSサーバー、運用ドメインと接続IP、管理者アカウントの設定を行ってください。

注意） 既に設定済みの環境を変更したく無い場合は、本ウィザード起動時に「キャンセル」ボタンを押してください。

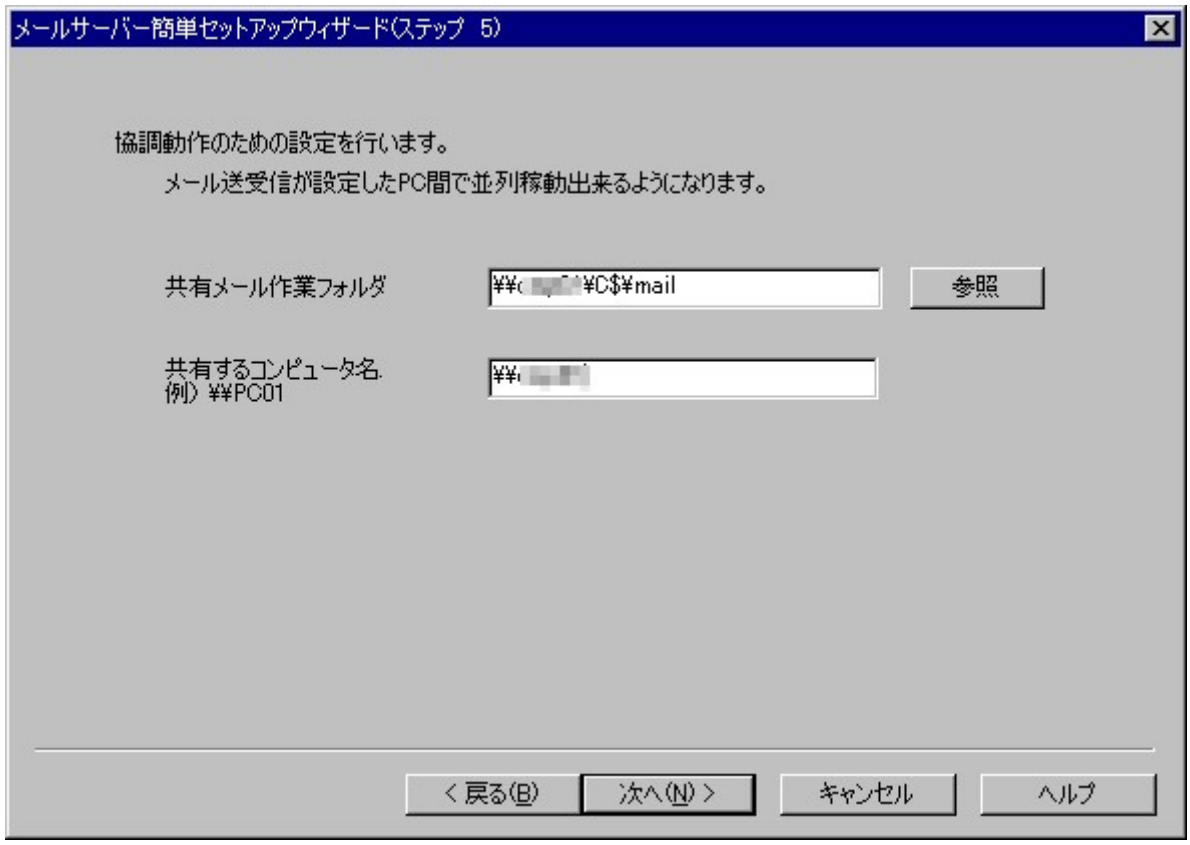


アカウントの管理方法を選択し、「次へ」ボタンを押します。

使用するＤＮＳサーバーを１つ以上指定し、「次へ」ボタンを押します。

メールサーバーが運用するドメインおよび接続ＩＰを指定し、「次へ」ボタンを押します。

本メールサーバーの管理者とするアカウントを指定し、「次へ」ボタンを押します。



並列運用するための共有設定項目を指定し、「次へ」ボタンを押します。

上記の設定内容が確認の為に表示されます。設定に間違いがなければ、「完了」ボタンを押します。

3. サービスの登録を行う。

ウィザードが終了すると、以下のダイアログが表示されますので「はい」を選択します。

登録サービスの起動アカウントを選択する画面が表示されますので、アカウントの管理方法によって（以下参照）設定し「OK」を押します。

1. 単独や Windows Account、AD（アクティブディレクトリ）のアカウントを利用し、運用する場合
   「LocalSystem」を選択

2. メールサーバーのクラスタの為、ファイルサーバー（共有 DISK）に接続する場合
   「アカウント指定」を選択（インストールマシンの Administrator アカウントとパスワードを指定します。）

注意）　設定したアカウントに対するパスワードを間違えますとサービスが起動できなくまります。

パスワードを 間違えた場合は一旦サービスを「削除」し「登録」を押しますと再入力が可能になります。

以降各サービスのインストールが成功すると以下のようなダイアログが順次表示されますので「OK」を押します。

以上で各サービスのインストールが完了しました。

4. サーバー設定の確認を行う。

設定ダイアログ(E-Post Mail Control)が開きますので運用に必要な設定を行います。

⇒ 13ページ参照

5. アカウントの登録を行う。

設定ダイアログの設定終了後、**アカウントマネージャ**(E-Post Account Manager)が起動します。

左側のドメインツリーを選択し、メールアカウント作成を行います。

⇒ 46ページ参照

以上の設定が完了するとメールの送受信が行えるようになりますので、任意のメールクライアントソフトで送受信の確認を行って下さい。

6. クラスタ化の設定を行う。

クラスタ化するためには情報が各サーバーから共有できるよう設定する必要があります。

⇒ 56ページ参照

サーバー設定

1. システム管理パスワード

設定ダイアログがパスワードの入力をしないと次回の起動から立ち上がらないようにする場合設定します。例えば、本ソフトウェアをインストールしたマシンに複数の人が管理者アカウントなどでログインする場合など、不用意にメールサーバー管理者以外に基本設定を変更させたく無い場合に利用します。

2. SMTPゲートウェイ

外部ドメインへの配送メールを特定のSMTPサーバーへ転送したいとき指定します。

Default： 空白

例) 192.168.0.4 を入れた場合

受信した外部ドメインへの配送メールは、192.168.0.4のSMTPサーバーへ転送します。

「**テーブル編集**」ボタン

ドメイン別の配送先を指定する必要がある場合にファイルに記述して下さい。

複数の定義が可能です。(昇順に処理されます)

記述方法は以下の通りです。

<書式>「対象ドメイン」,「ゲートウェイ先(FQDN or IP)」,「接続ポート(*)」

注1) 行の先頭にクォーテーション(')又はブランクが挿入されるとコメント行として扱います。

注2) 「対象ドメイン」にはワイルドカード'*'指定が可能です。

注3) 「接続ポート」の'*'指定は、SSLによる通信を可能にします。

注4) この場合、相手ゲートウェイがSSLによる通信が可能であること。

例1)ポート25にて関連するサブドメインをまとめて指定ゲートウェイへ接続する場合

*.xxxx01.co.jp,mailgateway01.xxxx.co.jp,25

*.xxxx02.co.jp,mailgateway02.xxxx.co.jp,25

:

*.xxxxNN.co.jp,mailgatewayNN.xxxx.co.jp,25

又は、

01*.xxxx.co.jp,mailgateway01.xxxx.co.jp,25

02*.xxxx.co.jp,mailgateway02.xxxx.co.jp,25

:

NN*.xxxx.co.jp,mailgatewayNN.xxxx.co.jp,25

例2)ポート465にてSSLで接続する場合

xxxxxx.co.jp,mailgateway.xxxxxx.co.jp,465*

3. 全受信メールをSMTPゲートウェイへ転送。

内部ドメインへ宛てのメールをこのマシン内のメールボックスに保管せず、別のSMTPサーバ(別のマシンに用意したメールボックス)転送したいとき指定します。

指定時には、「**SMTPゲートウェイ**」に転送先のマシンアドレスを必ず指定してください。

Default: 未指定

4. メール用作業フォルダ

メール送受信の為の作業フォルダを指定します。

Default: %SystemRoot%¥SYSTEM32¥E-POST¥MAIL

5. メールボックスフォルダ

各ユーザー毎に貯えられるメールの保存フォルダを指定します。

ユーザー毎にディレクトリを指定する為に、以下の変数をユーザー名またはホームディレクトリとして指定することが可能です。

Default: %HOME%¥INETMAIL¥INBOX

変数は以下の通りです。

%USERNAME%

ユーザーのログイン名。

例) C:¥MAIL¥INBOX¥%USERNAME%

%HOME%

ユーザーマネージャ上のホームディレクトリ(Windows2000以降ではホームフォルダ)の設定が反映されます。

例) %HOME%¥INETMAIL¥INBOX

6. DNSサーバー

MXレコードを参照する為に、使用可能なDNSサーバーのIPアドレスを指定します。

ここで指定するDNSサーバーは外部ドメインのアドレス引きが可能(キャッシュが有効)な設定のDNSサーバーを指定して下さい。

(最大3個まで有効)

なお、配送先IPアドレスへの解決は、OS側の「ネットワーク接続」で設定されたDNSにより行われます。

SSL設定

SSLによってSMTP/POP3/IMAP4の暗号化通信を行う場合の、公開鍵証明書ファイル、秘密鍵ファイルをそれぞれ指定します。

本設定で各ファイルが指定されていないと、SSLでの通信は行えません。

なお、暗号化通信することが目的の場合、公開鍵証明書ファイルは自己署名による証明書で十分ですが正規の公開鍵証明書を必要な場合は、各証明書発行サイトなどを利用し取得してください。

ドメイン管理

1. IP Version

本サーバーが運用されるIP versionを選択します。　（Default：IPv4 only）

IPv4 only → IP version 4 のみにて運用されます。

IPv4/6 → IP version 4/6 混在にて運用されます。

IPv6 only → IP version 6 のみにて運用されます。

注意） WinNT/Win2000/WS2003であっても、IPv6 protocol Stackが未インストールの場合は、「IPv4 Only」で使用してください。

2. ホスト名

上記"IP Version"で"IPv6 Only"もしくは"IPv4/6"を選択したときIPv6で定義されている本サーバーのホスト名を定義します。

（Default：空白）

3.「アカウントフォルダー」又は、「所属ドメインのアカウントを使用する」

Soft Accountにて管理している場合、「アカウントフォルダー」としてアカウント情報を管理しているフォルダをフルパスにて指定します。

Windows Accountにて管理している場合、所属ドメインや信頼関係で「信頼する」側のアカウントを本サーバーにて利用する場合に、利用するドメイン名を指定してください。

また、サーバー自身のアカウント（ローカルドメインのアカウント）を使用する場合、本項目は"空白"とします。

（Default：空白 "サーバー自身のアカウント"を使用）

注意） ここでいう「ドメイン名」とは、Windowsネットワークでのドメインコントローラ（PDC）が管理する「ドメイン名」で、Windows2000以前で使用されるピリオドの無い名称です。

4. メールユーザーとなるローカルグループ名

Windows　Accountにて管理している場合、任意のメールグループ（ローカルグループ）を指定します。
未設定のままですと、全ての内部ドメイン宛てのメールが受信拒否されますので、正しく設定してください。
（Default：空白）
例）IMSUsers

5. 管理者アカウント

このメールサーバーの管理者アカウントを指定します。
（Default：Administrator）
例）Administrator@ドメイン名

注意）ドメイン名を含まないアカウントを定義しないで下さい。

アカウントのみの場合、"アカウント@FQDN(マシン名.ドメイン名)"として処理します。

この設定で、"管理者にもエラーメールを送信する"が有効だとエラーメールがループしてしまいます。

外部のメールアドレスの指定も可能です。

IMS.CTL設定による自動転送（外部ドメインへ）を行い、送信先サーバーの状況により配送エラーが発生すると、エラーメールの再帰的配送が行われないようにするため送信元がここで設定した、管理者アカウントで内部ユーザーへメール送信した場合には転送を禁止しています。

この為、管理者アカウントに於いて転送指定を行いたい場合は、実アカウントとせず「エイリアス設定」にて名称を定義したものを指定して下さい。

6. 管理者にもエラーメールを送信する

チェックすると、宛先不明や、送信先に拒否されたメールが、「管理者アカウント」で設定したアカウントへコピーされます。

注意）　チェックされている状態で、IMS.CTL設定による自動転送（外部ドメインへ）を行い、送信先サーバーの状況により配送エラーが発生すると、エラーメールの再帰的配送が行われる可能性があります。

発生しないようにするため、「E-Post Mail Server」では、送信元がここで設定した、管理者アカウントでの転送設定は無効としています。

7. 運用ドメイン設定

内部ドメインとしてメールボックスを管理するドメインを指定します。 例）abc.co.jp

詳細ボタン

詳細ボタンを押すとダイアログが開き、該当ドメインに割当てられたメールボックスの詳細な選択を行います。

登録許可したアカウント数（0 = 無制限）：デフォルト 0

該当ドメインへのアカント登録制限を行いたい場合最大許可数を設定します。

1. 共通ボックス（区別しない）

以下の条件下で運用している場合選択してください。

a.Windows Accountにて運用

b.単一ドメインにて運用

2. 接続IPで区別する

Soft Accountで、マルチドメインにて運用する場合、ドメインに割当てられたIPアドレス(SMTP、POP3、IMAP4) およびメールボックスフォルダの指定で、%USERNAME%を指定している場合にドメイン別のフォルダを割当てられる為の、フォルダ名（任意）を指定します。

IPアドレス(SMTP) ： ドメインで割当てられたSMTPのIPアドレス。

IPアドレス(POP3) ： ドメインで割当てられたPOP3のIPアドレス。

IPアドレス(IMAP4)： ドメインで割当てられたIMAP4のIPアドレス。

フォルダ名

「メールボックスフォルダ」で"%USERNAME%"を指定している場合に追加されるフォルダ名。

このフォルダ名で、"xxxx.co.jp"と指定していた場合、"¥xxx.co.jp¥%USERNAME%" として扱われます。

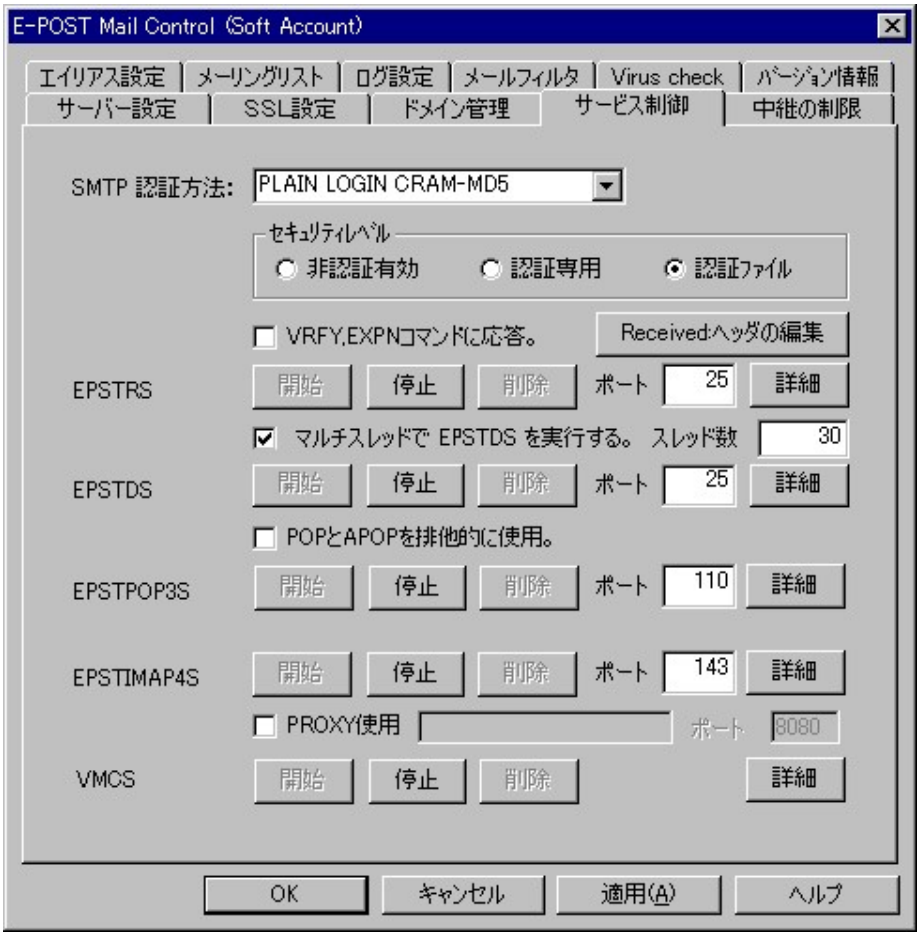
追加ボタン

内部ドメインを追加する時、左記項目に入力した後、このボタンを押すと一覧に登録されます。

削除ボタン

内部ドメインを削除する時、左記項目リストを選択した後、このボタンを押すと該当ドメインが削除されます。

サービス制御



メールサービスを実施するのに必要な各サービスプログラムの動作・停止・削除を制御します。

1. EPSTRS(SMTP 受信部)

このサービスは、外部SMTPサーバーやメールクライアントからの受信に関しての制御が行われるサービスプログラムです。

VRFY,EXPNコマンドに応答する （Default：応答する）

ユーザー問合せの要求に応答するか否かを指定します。

Received:ヘッダの編集

このボタンを押すと、SMTPサーバーが受領したメールに付加するReceived:ヘッダ編集ファイル"header.dat"が開かれます。

細かい編集を行いたい場合に本ファイルを編集し保存して下さい。

SMTP 認証方法 （Default："NO" 非認証）

認証時に有効な認証方法を選択します。

セキュリティレベル （Default：非認証有効）

SMTP認証方法が有効とされているとき、外部からのメールサーバーよりの非認証接続をどのように対応するかを選択します。

1. 非認証有効

送信元エンベロープがローカルアカウントの場合に認証でも非認証でも受信します。

2. 認証専用

外部からの受領メールを含む全ての受信に認証が必要となります。

3. 認証ファイル

登録(内部)ユーザのメール送信時にSMTP認証を行わせる場合は、この設定を選択してください。

Softアカウントマネージャからのアカウント登録時に表示されるダイアログの「**認証ファイルを設定する**」がチェックされているものがSMTP認証の対象となります。

ポート

SMTP 受信時のポート番号を指定します。(Default:25)

詳細ボタン

接続セッション数

同時に処理可能な接続数を指定します。(デフォルトは0=無制限)

IP設定

運用マシンが複数のIPアドレスを設定している場合、特定のIPアドレス/ポート番号のみ応答するように指定する場合に設定します。

また、ポート番号の末尾に'*'(アスタリスク)を付けるとSSL通信のポートとして処理されます。

(デフォルト:全てのIPアドレスに応答する。)

送信者の信頼度

SMTP認証時のUSER-IDと送信元エンベロープ、メールヘッダ内のFROM:との比較で送信の可否を行う場合に設定します。

本設定は、SMTP認証が有効なユーザーに対してのみ適用されます。

SMTP認証ID

SMTP認証で成功すれば他の送信元情報に依存しないで送信を許可します。(デフォルト)

SMTP認証ID = エンベロープ

SMTP認証IDで成功し、且つ、送信元エンベロープと一致した場合に送信を許可します。

SMTP認証ID = エンベロープ = FROM:ヘッダー

SMTP認証IDで成功し、且つ、送信元エンベロープとFROM:ヘッダーとが一致した場合に送信を許可します。

2. EPSTDS(SMTP 送信部)

このサービスは、内部メールボックスや外部SMTPサーバーへのへの配送に関しての制御が行われるサービスプログラムです。

マルチスレッドでEPSTDSを実行する （Default： マルチスレッドで実行）

複数の配送処理を同時処理する場合にチェックします。(通常はチェックしてください。)

スレッド数

上記チェックボックスがチェックされたとき入力可能になります(デフォルトは1スレッド)

スレッド数を増やすことにincomingフォルダに受付けられたメールをスレッド数分同時に送信実行しますので送信処理能力が向上します。(特に、メーリングリストの配送時)

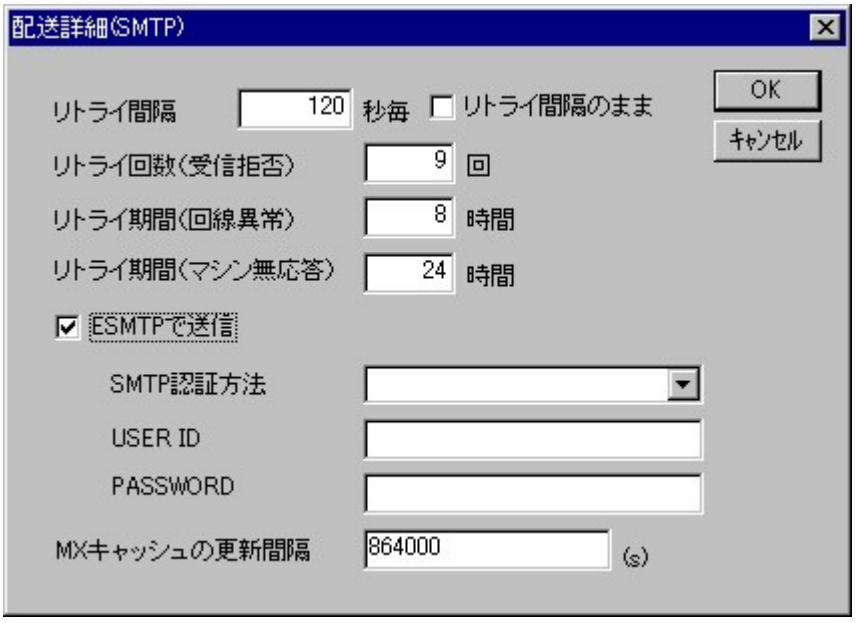
デフォルトは1スレッドですが、通常は20～30に設定して下さい。

ポート

SMTP 送信時のポート番号を指定します。(Default:25)

詳細ボタン

リトライ送信など以下のような詳細な設定が行えます。



リトライ間隔

送信に失敗した場合の次回送信サイクルを指定します。(デフォルトは１２０秒＝２分)

リトライのまま

チェックした場合、次回送信サイクルに間隔をおかず強制的に送信をトライします。(デフォルトはオフ)

リトライ回数（受信拒否）

送信先が拒絶理由を応答した場合の送信エラーメールを発行するまでのリトライ回数（デフォルトは９回）

リトライ期間（回線異常）

送信先への接続が可能にもかかわらず、通信タイムアウトなどの理由により送信エラーメールを発行するまでのリトライ期間（デフォルトは８時間）

リトライ期間（マシン無応答）

送信先ドメインは存在するがマシンへ接続できないなどの理由により送信エラーメールを発行するまでのリトライ期間（デフォルトは２４時間）

ESMTPで送信

送信先への通信を、SMTP認証を行って送信させたい場合にチェックします。(デフォルトはオフ)

SMTP認証方法

送信時のSMTP認証方法を選択します。

USER ID

SMTP認証時のIDを指定します。

PASSWORD

SMTP認証時のPASSWORDを指定します。

MXキャッシュの更新間隔(デフォルトは864000秒＝240時間(10日間))

DNSへの問合せを減らし、送信処理が向上させるために、1度送信に成功した送信先のMXレコードを一定期間キャッシュする機能です。

MXキャッシュを無効にさせる場合は、0を指定します。

3. EPSTPOP3S

このサービスは、POP3に関しての制御が行われるサービスプログラムです。

POPとAPOPを排他的に使用。: (Default:排他しない)

APOP.DATファイルが設定されているアカウントは、APOP認証だけで接続を有効にします。

デフォルトの時、APOP.DATファイルが存在すると"APOP認証"及び "POP認証"で接続が有効です。

ポート

POP3 ポート番号を指定します。(Default:110)

詳細ボタン

接続セッション数

同時に処理可能な接続数を指定します。(デフォルトは0＝無制限)

IP設定

運用マシンが複数のIPアドレスを設定している場合、特定のIPアドレス/ポート番号のみ応答するように指定する場合に設定します。

また、ポート番号の末尾に'＊'(アスタリスク)を付けるとSSL通信のポートとして処理されます。

(Default:全てのIPアドレスに応答する。)

４．EPSTIMAP4S

このサービスは、IMAP4に関しての制御が行われるサービスプログラムです。

ポート

IMAP4 ポート番号を指定します。（Default：１４３）

詳細ボタン

接続セッション数

同時に処理可能な接続数を指定します。（デフォルトは0＝無制限）

IP設定

運用マシンが複数のIPアドレスを設定している場合、特定のIPアドレス/ポート番号のみ応答するように指定する場合に設定します。

また、ポート番号の末尾に’＊’(アスタリスク)を付けるとSSL通信のポートとして処理されます。

（Default：全てのIPアドレスに応答する。）

５．VMCS

このサービスは、ウイルスチェック用のデータベース更新を行うためのサービスプログラムです。

データベース更新はhttpプロトコルにて行われます

PROXY使用

PROXYサーバーを経由してデータベース更新を行う必要の場合は、チェックします。

チェックするとグレーで表示される入力欄が入力可能となりますのでPROXYサーバーのFQDNを設定します

ポート

PROXYサーバーのポート番号を指定します。（デフォルトは８０８０）

詳細ボタン

更新間隔

データベースへの問い合わせを行う間隔（１時間単位）を指定します。（デフォルトは３時間）

ログを残す

チェックしますとデータベースの更新問い合わせ記録が本製品インストールフォルダ下の"log"フォルダに記録されます。（デフォルトはオフ）

中継の制限

1. マシン毎の中継

このボタンを押すと、中継制限を設定するファイル"effect.dat"ファイルが開きます。

細かい制限を行いたい場合に本ファイルを編集し保存して下さい。

記述の方法は以下の通りで、処理する内容を1行/1アドレスとして書込んで行きます。

また、特定のIPアドレスからの受信を拒否したいとき(IPアドレス<SP>false)と記入ます。

逆に、特定のIPアドレスからの中継だけを可能にしたいとき(IPアドレス<SP>only)と記入します。

何も書かないと、SMTP送信者アドレスが内部ドメインのもののみに制限されます。

注意）

effect.datでの設定で、ドメイン名による指定は送信元エンベロープ(Mail From:)との比較に利用されます。

そのため、ネットワークの範囲指定としては設定できません。

ネットワークの範囲指定は必ず、IPアドレスにて行って下さい。

“only”指定は記述の最後としてのみ有効です。“only”指定以降の記述は無効になりますのでご注意ください。

<SP>=半角スペースです。TABは利用できません。

① effect.datファイルによる中継ルールについて

Ⅰ. effect.dat 設定 未定義(Default) 又は、 192.168.0.＊ default のとき

Recipent / From	内　部（アカウント有り）	内　部（アカウント無し）	外　部
内部(アカウント有り)	○	×	○
内部(アカウント無し)	×	×	×
外部	○	×	×

Ⅱ. effect.dat 設定 192.168.0.＊ (true) のとき

指定IPアドレスからの送信を受付けます。

192.168.0.＊からの送信受付け

Recipent / From	内　部（アカウント有り）	内　部（アカウント無し）	外　部
内部(アカウント有り)	○	×	○
内部(アカウント無し)	○	×	○
外部	○	×	○

192.168.0.＊以外からの送信受付け

Recipent / From	内　部（アカウント有り）	内　部（アカウント無し）	外　部
内部(アカウント有り)	○	×	○
内部(アカウント無し)	×	×	×
外部	○	×	×

Ⅲ. effect.dat 設定 192.168.0.＊ false のとき

指定IPアドレスからの送信を拒否します。

192.168.0.＊からの送信受付け

Recipent / From	内　部（アカウント有り）	内　部（アカウント無し）	外　部
内部(アカウント有り)	×	×	×
内部(アカウント無し)	×	×	×
外部	×	×	×

192.168.0.＊以外からの送信受付け

Recipent / From	内　部（アカウント有り）	内　部（アカウント無し）	外　部
内部(アカウント有り)	○	×	○
内部(アカウント無し)	×	×	×
外部	○	×	×

Ⅳ. effect.dat 設定 192.168.0.＊ norelay のとき

対象のIPから、存在するローカルアカウント宛のメールを受領しますが、外部中継は拒否します。

※1）SMTP認証で認証されているセッションは、許可(○)されます。

192.168.0.＊ norelay,0 とすると、SMTP認証で認証されているセッションについても禁止(×)になります。

192.168.0.＊ norelay,2 とすると、対象IPからの送信は、SMTP認証より優先条件となり一律受領処理されます。

192.168.0.＊からの送信受付け

From \ Recipent	内　部（アカウント有り）	内　部（アカウント無し）	外　部
内部(アカウント有り)	○	×	×(※1)
内部(アカウント無し)	×	×	×
外部	○	×	×

192.168.0.＊以外からの送信受付け

From \ Recipent	内　部（アカウント有り）	内　部（アカウント無し）	外　部
内部(アカウント有り)	○	×	○
内部(アカウント無し)	×	×	×
外部	○	×	×

Ⅴ. effect.dat 設定 192.168.0.＊ only のとき

指定したIPアドレスのみ接続による外部への中継を許可し、その他のマシンからの接続は外部アカウントから内部アカウントへの受信のみ許可します。

192.168.0.＊からの送信受付け

From \ Recipent	内　部（アカウント有り）	内　部（アカウント無し）	外　部
内部(アカウント有り)	○	×	○
内部(アカウント無し)	×	×	×
外部	○	×	×

192.168.0.＊以外からの送信受付け

From \ Recipent	内　部（アカウント有り）	内　部（アカウント無し）	外　部
内部(アカウント有り)	×	×	×
内部(アカウント無し)	×	×	×
外部	○	×	×

② effect.datでの記述例

注意） effect.datでの設定で、ドメイン名による指定は送信元エンベロープ（Mail From:）との比較に利用されます。そのため、ネットワークの範囲指定としては設定できません。 ネットワークの範囲指定は必ず、IPアドレスにて行って下さい。

Ⅰ. ネットワーク範囲の制限

a) class A の範囲を許可したいとき

10.＊.＊.＊

b) class B の範囲を許可したいとき

192.168.＊.＊

c) class C の範囲を許可したいとき

192.168.1.＊

d) 192.168.1.0～192.168.1.15のアドレスの範囲を許可したいとき

192.168.1.0/28

e) 192.168.1.0～192.168.1.15のアドレスからの受信を拒否したいとき

192.168.1.0/28　false

f) 192.168.1.0～192.168.1.15のアドレスからのみデフォルト条件での中継を可能にしたいとき

192.168.1.0/28 default

0.0.0.0 only

g) 192.168.1.0～192.168.1.15のアドレスからのみデフォルト条件での中継かつ外部からのローカル宛のみ受信したいとき

192.168.1.0/28 default

..*.* norelay

Ⅱ. 送信元エンベロープによる制限

a) 送信元エンベロープが特定のドメインの場合に、受信を許可したいとき

abc.co.jp

※本設定は踏み台になる可能性があるので外部公開されるサーバー上での使用は避けてください。

b) 送信元エンベロープが特定のドメインの場合に、受信を拒否したいとき

abc.co.jp　false

c) 特定の送信元エンベロープの場合に、受信を許可したいとき

abc@abc.co.jp

d) 特定の送信元エンベロープの場合に、受信を拒否したいとき

abc@abc.co.jp　false

e) 特定の送信元エンベロープのみ、中継を可能にしたいとき

abc@abc.co.jp　only

f) 送信元エンベロープが空白の場合に、拒否したいとき

#blank false

g) 送信元エンベロープが"<>"の場合に、拒否したいとき

#<> false

h) 送信元(MAIL FROM:)のドメイン部が数値(IP)の場合に拒否したいとき

#number false

i) 送信元(MAIL FROM:)のドメイン部が空白（アカウントのみ）の場合に拒否したいとき

#nodomain false

j) 送信元(MAIL FROM:)のドメイン部がホスト名のみの場合に拒否したいとき

#host false

2. メール受信時のサイズ制限

メール受信時の最大サイズを制限したい場合バイト単位で指定します。
無制限にしたい場合は、"0"を指定します。(Default:0)
設定を変更した場合、"EPSTRS"を再起動する必要があります。

3. メールボックスの保管サイズ制限

メールボックスの最大保管サイズを制限したい場合バイト単位で指定します。
無制限にしたい場合は、"0"を指定します。(Default:0)
設定を変更した場合、"EPSTRS"を再起動する必要があります。

4. "CC,BCC"受領制限

1メールあたりの配送先アドレス数の制限を行う場合に指定します。
設定を変更した場合、"EPSTRS"を再起動する必要があります。

5. ORDBによる制限

オープンリレーデータベース(ORDB)に記載されたデータを元に制限を行う場合に指定します。

6.問い合わせないIP

"オープンリレーデータベース(ORDB)"に問合せないIPアドレスを、指定します。

エイリアス設定

エイリアスの設定では受信したメールアドレスを実アドレスで指定したメールアドレスに変換し内部ドメインであればメールボックス内へ、外部ドメインであれば外部へ転送を行います。

例として、複数ドメインの混在した環境(abc.co.jp,def.co.jp等)で運用する場合、両方のドメインで、info や support のアカウントで受取れるようにするには、

エイリアス:"info@abc.co.jp" → 実アドレス:"abc-info@abc.co.jp"

エイリアス:"info@def.co.jp" → 実アドレス:"def-info@def.co.jp"

と設定することにより、

"info@abc.co.jp"宛てに届いたメールは、"abc-info@abc.co.jp"へ

"info@def.co.jp"宛てに届いたメールは、"def-info@def.co.jp"へ

それぞれ配送されます。

また、ワイルドカード(アスタリスク)を使う定義も可能です。

エイリアス:"*@abc.co.jp" → 実アドレス:"abc-postmaster@abc.co.jp"

ドメインabc.co.jp宛てのメールは"abc-postmaster@abc.co.jp"へ送られます。

この設定では、**デフォルトの動作**として、

1)エイリアスと実アドレスが**同一のドメインの場合**は、送信先レシピエントを、**エイリアス名のまま置換えません**。

2)エイリアスと実アドレスが**異なるドメインの場合**は、送信先レシピエントを、**実アドレスへ置換えます**。

明示的に指定を行う場合は、送信先レシピエントを、実アドレスに**置換える場合は、"実アドレス,1"**

とし、送信先レシピエントを、実アドレスに**置換えない場合は、"実アドレス,0"**

とオプションを指定することにより置換えの有無の設定を行うことが出来ます。

例1)送信先レシピエントがエイリアス名(info@def.co.jp)で受領し配送時に送信先レシピエントを def-info@def.co.jp に強制的に書き換える場合。

エイリアス: "info@def.co.jp" → 実アドレス: "def-info@def.co.jp,1"

例2) 送信先レシピエントがエイリアス名(info@def.co.jp)で受領し配送時に送信先レシピエントを異なるドメイン宛 info@abc.co.jp に強制的に書き換える場合。

エイリアス"info@def.co.jp" → 実アドレス: "info@abc.co.jp,1"

例3) 送信先レシピエントがエイリアス名(info@def.co.jp)で受領し配送時に送信先レシピエントを異なるドメイン宛 info@abc.co.jp に置換えしない場合。

エイリアス:"info@def.co.jp"->実アドレス: "info@abc.co.jp,0"

これらの設定は、ワイルドカード(アスタリスク)を使う定義も可能です。

エイリアス: "*@def.co.jp" → 実アドレス: "*@abc.co.jp,1"

注意)EPSTRSでは、ドメインなしでのエイリアス設定は中継拒否されてしまいます。

ワイルドカード指定'*'は、アカウントにのみ有効です。

例)

× エイリアス:"info" → 実アドレス:"abc-info"

× エイリアス:"info" → 実アドレス:"abc-info@abc.co.jp"

× エイリアス:"info@abc.co.jp" → 実アドレス:"abc-info"

○ エイリアス:"info@abc.co.jp" → 実アドレス:"abc-info@abc.co.jp"

メーリングリスト

本サーバーソフトェアはメーリングリストを設定することができます。

1. メーリングリスト名

このダイアログには、メーリングリストとして設定されたリストが表示されます。

2. 追加するメーリングリスト名

新しいメーリングリストの作成時にメーリングリスト名を入力し、追加ボタンを押すことにより新しいメーリングリスト名が登録されます。

次に表示されたメーリングリスト名を選択し「詳細設定」ボタンを押して対象となるリストの送受信条件を設定します。OKボタンを押すとと登録完了します。

注意)ドメイン別としたい場合は「追加するメーリングリスト名」欄に、"メーリングリスト名@ドメイン"として入力してください。

なお、ドメイン無しの"メーリングリスト名"としますと、全てのドメイン共通となりますのでご注意下さい。

3. 削除

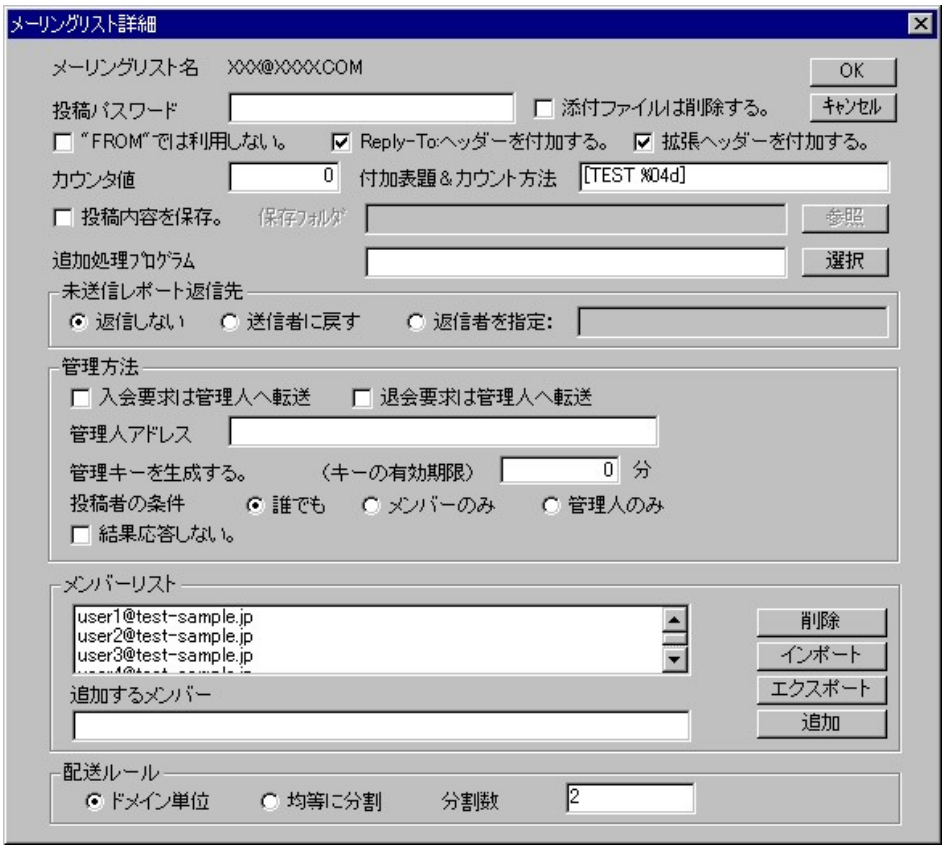
指定したメーリングリストを削除します。

4. 詳細設定

選択したメーリングリストの送受信条件を設定します。

⇒ 30ページ参照

メーリングリスト詳細設定



1. メーリングリスト名

対象となるメーリングリストの名称を示します。

2. 投稿パスワード（Default：空白）

メーリングリスト投稿時に「SMTP認証を行わない投稿は拒否する」方法で、投稿者を信任する場合に設定を行います。 この設定を有効にした時は、[サーバー設定]→[SMTP認証方法]を"NO"以外にしなければなりません。

また、空白とした場合、未認証にて投稿内容を受付ける従来通りの処理となります。

注意）投稿パスワードを設定し認証をかけた場合の投稿時の注意点

a）メーリングリストが運営されているメールサーバーにクライアントは直接接続してSMTP認証を受け投稿しなければなりません。

b）このときのML参加した投稿者のSMTP認証は、仮にメールグループが"test"であるとして、

ID=test

PASSWORD=「投稿パスワード」に設定したパスワード

で認証を行うことになります。

例外的に内部ユーザーで自分のIDにてSMTP認証できるように、APOP.DATファイルへ設定がこのなわれている場合は、そのアカウントとパスワードでの認証にて投稿が可能です。

3. "FROM"では利用しない（Default：利用する）

対応するメーリングリスト名を送信元アカウントとしての利用の有無を指定します。

4. Reply-To:ヘッダを付加する（Default：付加する）

対応するメーリングリストへの投稿メールにReply-To:ヘッダを付加するか否かを指定します。

５．拡張ヘッダを付加する（Default：付加する）

対応するメーリングリストへの投稿メールにReply-To以外のヘッダを付加するか否かを指定します。

６．カウンタ値　（Default：0）

対象となるメーリングリストに投稿された回数をカウントします。

特定の番号から始めたい場合は、直接本項目に番号を設定してください。（その番号からカウントされます。）

７．投稿内容を保存（Default：保管しない）

メーリングリストに投稿されたデータを「保存フォルダ」で指定した場所に保管しておきたいときチェックします。

８．追加処理プログラム（Default：空白）

メーリングリストに投稿されたデータに対し何らかの加工を行いたい場合、ここで処理プログラム(DLL)を指定してください。

実行可能なDLLを作成する場合はウェブサイトより別途、"**SPA-DLL-Kit**"をダウンロードする必要があります。

９．付加表題＆カウント方法

対象となるメーリングリストに投稿された、表題(Subject)にリスト固有の名称及び、「２．カウンタ値」で示すカウント数を付加します。

カウント数の指定は、"**%0<カウント桁数>d**"で表現します。

例1）［test %03d］

subject: [test 001］ 投稿された表題

と置き換えられ順次（000～999)カウントアップを繰り返します。

例2）［test %04d］

subject: [test 0001］ 投稿された表題

と置き換えられ順次（0000～9999)カウントアップを繰り返します。

例3）［test %05d］

subject: [test 00001］ 投稿された表題

と置き換えられ順次（00000～99999)カウントアップを繰り返します。

１０．未送信レポート返信先（Default：返信しない）

送信エラーのレポート発行について以下より選択します。

1. 返信しない。
2. 送信者に戻す。
3. 返信者を指定。（項目で指定された電子メールアドレスへ送信します。）

11. 管理方法

入会要求は管理人へ転送 ： JOINメッセージのメールは管理者へ転送されます。

退会要求は管理人へ転送 ： LEAVEメッセージメールは管理者へ転送されます。

管理人アドレス ： 管理人のメールアドレスを設定します。

管理キーを生成する ： 管理人による入退会、メンバー一覧取得、記事削除の各要求の詐称防止の為、KEYGENコマンドで事前に作成された管理キーを表題(Subject:)に添付しないと処理を出来なくします。
デフォルト＝０（管理キーを必要としない）
本設定は、０以外の値（分単位）を設定した場合有効になります。
設定した数値は、生成したキーの作成時点からの使用有効期間になります。

投稿者の条件 （Default：メンバーのみ）

1. 誰でも ： 不特定の人物からメッセージ送信を可能とします。
2. メンバーのみ ： リストに登録されたメンバーのみ送信を可能とします。
3. 管理人のみ ： 「管理人アドレス」に指定したメールアドレスのみ送信を可能とします。

結果応答はしない（Default：応答する）

MLへの投稿可能メンバー以外からの投稿に対する応答や、ML制御に関する結果の応答をさせたくない場合にチェックします。

メンバーリスト

メーリングリスト登録ユーザーのアドレスを管理します。

追加するメンバー・追加ボタン

アドレスを入力し「追加」ボタンを押すと、メンバーとして追加されます。

削除ボタン

アドレスをリストから削除します。

インポートボタン

メンバーリストをテキストファイルのリストから取込みます。

エクスポートボタン

メンバーリストをテキストファイルとしてリストへ出力します。

テキストファイルのフォーマットは、電子メールアドレスが1行毎に書かれているものとします。

″#″が先頭にあればコメント行となります。

ファイル例）

```
# サンプルファイル
オーナー <listowner@abc.co.jp>
ゲスト1 <User1@def.or.jp>
# その他
User2@ghi.com
<User3@jkl.co.jp>
```

12. 配送ルール （デフォルト ドメイン単位：分割数2）

メーリングリストの配送時に参加アドレスを分配し、効率良く配送する方法を設定します。

ドメイン単位：（特に同一ドメインの参加者の多い場合処理速度が飛躍的に向上します）

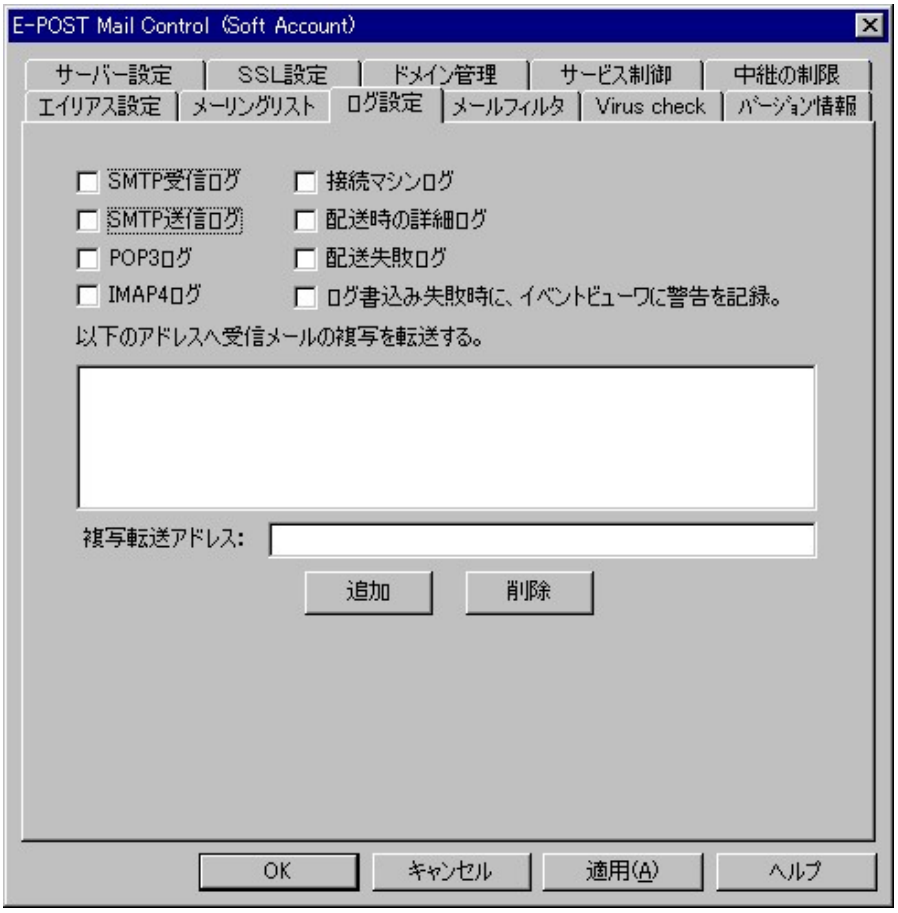
参加アドレスを「ドメイン単位」÷「分割数」に分配します。

その後、同報メールとしてドメイン単位で一括送信できるように送信ファイルを構成します。

均等に分割:

参加アドレスを「分割数」にて指定した数量に分配し、送信ファイルを構成します。

ログ設定



1. SMTP受信ログ

チェックすると受信したメールの記録を行います。

ログは、[メール作業フォルダ]下の"inlog¥<コンピュータ名>"というフォルダ中に作成されます。

2. SMTP送信ログ

チェックすると外部ドメインへ送信したメールの記録を行います。

ログは、[メール作業フォルダ]下の"outlog¥<コンピュータ名>"というフォルダ中に作成されます。

3. POP3ログ

チェックするとPOP3の接続の記録を行います。

ログは、[メール作業フォルダ]下の"pop3log¥<コンピュータ名>"というフォルダ中に作成されます。

4. IMAP4ログ

チェックするとIMAP4の接続の記録を行います。

ログは、[メール作業フォルダ]下の"imap4log¥<コンピュータ名>"というフォルダ中に作成されます。

5. 接続マシンログ

SMTPに接続し、"MAIL FROM:"コマンドで実行を試みたサーバー及びクライアント全てのIPアドレスの記録を行います。

ログは、[メール作業フォルダ]下の"acceptlog¥<コンピュータ名>"というフォルダ中に作成されます。

6. 配送時の詳細ログ

SMTP Delivery Agent(EPSTDS)の詳細な動作の記録をを行います。

ログは、[メール作業フォルダ]下の"senderlog¥<コンピュータ名>"というフォルダ中に作成されます。

7. 配送失敗ログ

SMTP Delivery Agent(EPSTDS)の配送できなかったメールの記録を行います。

ログは、[メール作業フォルダ]下の"faillog¥<コンピュータ名>"というフォルダ中に作成されます。

8. ログ書込み失敗時に、イベントビューワに警告を記録

SMTP受信ログやSMTP送信ログに関してログ書込みが失敗する要件（DISKトラブル）時にイベントビューワへの警告記録の有無を指定します。

9. 以下のアドレスへ受信メールの複写を転送する。

受信したメール全てに対し、ここで指定したメールアカウントに複写転送し、記録として残します。

複写転送アドレス・追加ボタン

複写の転送先アドレスを追加したい時、この項目に入力し、追加ボタンを押すことによりアドレスの登録が行われます。

削除ボタン

複写の転送先アドレスを削除したい時、一覧の該当アドレスを選択し、削除ボタンを押すことによりアドレスの削除が行われます。

メールフィルタ

本設定は、フィルタしたいメールの特徴を記述して一致する場合指定した処置を施します。
たとえば、不要な広告メール、嫌がらせのメール、デマメールなどもその特徴を記述することによりサーバー上にて受信を防ぐことが可能になります。

1. メールフィルタ機能(ウイルス感染予防)を使用する。

チェックすることにより、実行フォルダに用意された、"mail.dat"の設定に従い、フィルタ対象のメールか否かを判定し、"mail.dat"ファイルで指定した対応を実施します。
"mail.dat"は、メモ帳で編集可能です。
フィルタ対象のメールのバックアップ指定を行った場合は、[メール作業用フォルダ]下の"viruslog"というフォルダ中に保管されます。

mail.datファイルについて

このファイルはウイルス及びフィルタしたいメールの特徴を記入し、受信したメールデータと比較し問題がある場合指定した処置を施します。

指定方法は以下の通りです。

```
Virus:<name>
  Received:<token>("Recieved"ヘッダの特徴を定義、項目なしもしくは空白が特徴の場合'#blank'を指定)
  Subject:<Subject>("Subject"ヘッダの特徴を定義、項目なしもしくは空白が特徴の場合'#blank'を指定)
  From:<mail address>("From"ヘッダの特徴を定義、項目なしもしくは空白が特徴の場合'#blank'を指定)
  To:<mail address>("To"ヘッダの特徴を定義、項目なしもしくは空白が特徴の場合'#blank'を指定)
  Content-Type:<token>("Content-Type"ヘッダの特徴を定義、項目なしもしくは空白が特徴の場合'#blank'を指定)
  X-Mailer:<token>("X-Mailer"ヘッダの特徴を定義、項目なしもしくは空白が特徴の場合'#blank'を指定)
  X-UIDL:<token>("X-UIDL"ヘッダの特徴を定義、項目なしもしくは空白が特徴の場合'#blank'を指定)
  Body:
  <Body token>(ここに抑制するメールの特徴を記入最大5行)
  BodyEnd:
  Folder:<ドライブ>:<フォルダパス> (検出メールの保管フォルダを指定　デフォルトは、viruslog)
  Level:<n>
     n=x0x メールのバックアップしない。
     n=x1x メールのバックアップする。
     n=0xx 通過させる。
     n=1xx 拒否する。
     n=2xx 本文の先頭に警告メッセージの添付を行い通過させる。
     n=3xx Subject:へ"Tag:"で指定した文字列の挿入を行い通過させる。
     n=4xx ヘッダとして"Tag:"で指定した文字列の挿入を行い通過させる。
     n=5xx "Forward:"で指定したアドレスへ転送する。
     n=6xx Subject:へ"Tag:"で指定した文字列の挿入を行い、"Forward:"で指定したアドレスへ転送する。
     n=7xx ヘッダとして"Tag:"で指定した文字列の挿入を行い、"Forward:"で指定したアドレスへ転送する。
     n=xx0 送信元IPをEffect.datに登録しない。
     n=xx1 送信元IPをEffect.datに登録する。
  RBL:URIBL <URI Blacklists>(本文中のURLに記載されたドメインを指定したURIBLに問い合わせします)
  Tag:<token>(定義に一致した場合に<token>をSubject:ヘッダに挿入します)
  Forward:<forward address>(強制転送するメールアドレスを指定します。)
  Unique-Header:<unique header>:<token>(ヘッダの特徴を定義、項目なしもしくは空白が特徴の場合'#blank'を指定)
  Warning:
  <warning messeges> (ここに抑制するメールへの警告文を記入最大5行)
  WarningEnd:
VirusEnd:
```

本文中に含まれるURL(ドメイン)をRBL(Realtime Blackhole List)サーバー"multi.surbl.org"に問い合わせスパムと判定する設定例

```
'-------------------------------------------------------
Virus:URIBL multi.surbl.org
RBL:multi.surbl.org
Level:300
Warning:
---------------- warning ----------------------
"URIBL multi.surbl.org"
-----------------------------------------------
WarningEnd:
Tag:[SPAM !!]
VirusEnd:
'-------------------------------------------------------
```

条件一致でメールに任意のヘッダ"X-SPAM:TRUE"を追加する例

```
'-------------------------------------------------------
Virus:Add Header "X-SPAM:TRUE"
Level:400
Subject:test
Tag:X-SPAM:TRUE
VirusEnd:
'-------------------------------------------------------
```

メールの任意のヘッダ"X-SPAM:TRUE"を条件にフォワードする例

```
'-------------------------------------------------------
Virus:Mail Forward by "X-SPAM:TRUE"
Level:500
Forward:xxx@test-sample.jp
Unique-Header:X-SPAM:TRUE
VirusEnd:
'-------------------------------------------------------
```

条件一致でメールのSubject:へ"Tag:"で指定した文字列の挿入をを追加し、フォワードする例

```
'-----------------------------------------------------
Virus:Add Subject Header "[SPAM]" AND Mail Forward
Level:600
Subject:test
Tag:[SPAM]
Forward:xxxxx@test-sample.jp
VirusEnd:
'-----------------------------------------------------
```

条件一致でメールに任意のヘッダ"X-SPAM:TRUE"を追加し、フォワードする例

```
'-----------------------------------------------------
Virus:Add Header "X-SPAM:TRUE" AND Mail Forward
Level:700
Subject:test
Tag:X-SPAM:TRUE
Forward:xxxx@test-sample.jp
VirusEnd:
'-----------------------------------------------------
```

2. メールフィルタ(mail.dat)編集

上記以外の独自のフィルタパターンをここで設定します。

ここでの設定は全メールユーザーが対象になります。

3. チェック不要なIP

チェック不要なIPアドレスを、指定します。

ウイルスチェック設定

1. アンチウイルスを有効にする

チェックすると受信しようようとするメールに対しウイルススキャンを実行しウイルスが発見されると受信拒否を行います。

「ログを残す」チェックすると、[メール作業フォルダ]下の"viruslog"というフォルダ中に発見されたウイルスメールが保管されます。

2. 通知設定

本ボタンを押すとウイルス発見時の通知有無の選択を行う為のダイアログが開きます。

1. メールで通知する。

ウイルス発見時にメールで通知するか否かを指定します。

チェックすると、以下に指定した内容に従ってメール通知を行います。

2. SMTPサーバー

通知に使用するSMTPサーバーを指定します。

3. ポート

SMTPサーバーのポート番号を指定します。(デフォルト 25)

4. 送信元アドレス

通知メールの送信者アドレスを指定します。

5. 送信者名

通知メールの送信者名を指定します。

6. 送信先指定

通知を行いたい送信先の条件を指定します。

7. 送信先を指定

送信先アドレス欄に指定したアドレスに通知を行います。

複数送信先を指定する場合は、","(半角カンマ)で区切りを入れると可能になります。

また、本欄へ変数名(&TO,&FROM,&RCV,&SND)を指定しますと変数名に従い通知を行います。

変数名

&TO ウイルスの発見されたメールのTO:ヘッダに記載された最初のアドレスに通知します。

&FROM ウイルスの発見されたメールのFROM:ヘッダに記載された最初のアドレスに通知します。

&RCV ウイルスの発見されたメールの送信手順で送られたRCPT TO:のアドレスに通知します。

&SND ウイルスの発見されたメールの送信手順で送られたMAIL FROM:のアドレスに通知します。

例) xxx1@abc.jp と メールの送信手順で送られたRCPT TO:のアドレスへ通知する場合

xxx1@abc.jp,&RCV または、 &RCV,xxx1@abc.jp

先頭の記述アドレスがメールのTO:ヘッダに以降のアドレスはCC:ヘッダに記録されます。

8. 送信元へ送信

送信元アドレスに通知を行います。

9. 両方に送信

送信先アドレス欄に指定したアドレス及び送信元アドレスに通知を行います。

10. SMTP認証で送信(PLAINのみ)

送信する場合にSMTP認証を行う場合に指定します。(PLAIN方式での認証でのみ利用できます。)

ユーザ名

SMTP認証で使用するユーザーIDを指定します。

パスワード

SMTP認証で使用するパスワードを指定します。

3. チェック不要なIP

チェック不要なIPアドレスを、指定します。

バージョン情報

該当サービスについて、試用期間かレジスト済みかを表示します。

1. 最新版のチェックをする。

チェックすることにより、インストールされた各プログラムが、最新バージョンであるか弊社httpサーバーに問合せを行い最新である場合は各プログラムの表示に”OK”を表示します。

インストールされたプログラムの一部が古い場合は最新バージョンをダウンロードを促すメッセージが表示されます。

2. 設定内容の管理

各設定をバックアップ＆リストアするためのボタンです。

エクスポートボタン ： 各設定をバックアップします。　バックアップファイルフォルダは、[<プログラムインストールフォルダ>¥backup¥epst-ms.reg]として保存されます。

エクスポートボタン ： エクスポートで作成された設定ファイルをリストアします。

3. ライセンスキー登録

ボタンを押すとライセンスキーの入力ダイアログが表示されます。

発行されたライセンスキーを登録しますと、試用期間制限が解除されます。

メールアカウントの登録

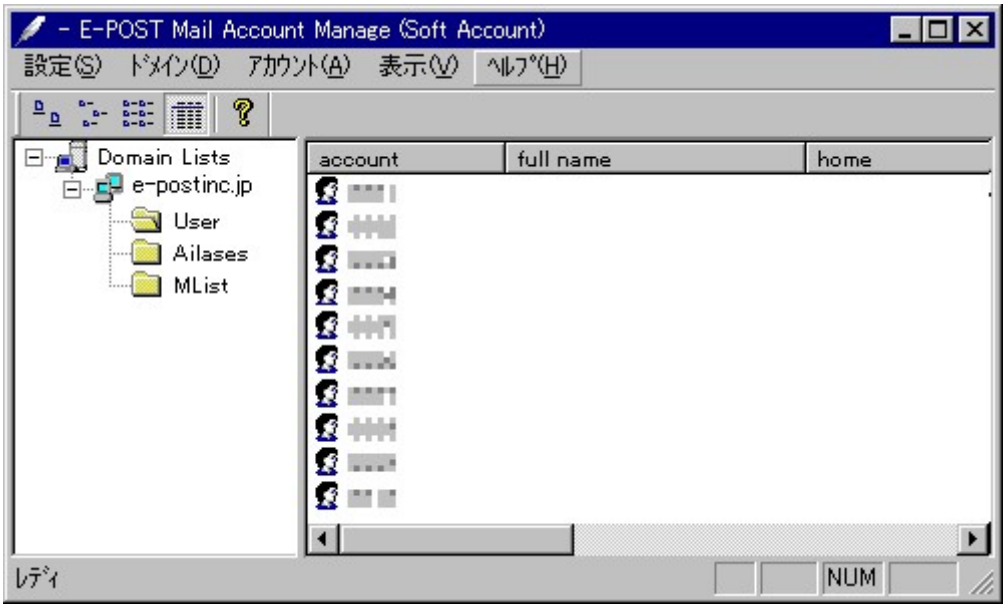
メールアカウントの登録は、付属の"Manager.exe"より登録します。

注意） E-Post Mail Server では、"postmaster"のアカウントは、SPAMメールで偽装したアカウントとして利用されてしまう場合がありますので、明示的に作成しないと使えなくしてあります。 必要な場合は、アカウントを作成してください。

また、"postmaster"アカウントを既に利用され、RSSのSPAMチェックのデータベースへ運悪く登録されてしまいますと、"postmaster"アカウントを消さない限りデータベース上から削除され無いので注意しましょう。

1. 運用ドメイン一覧の表示

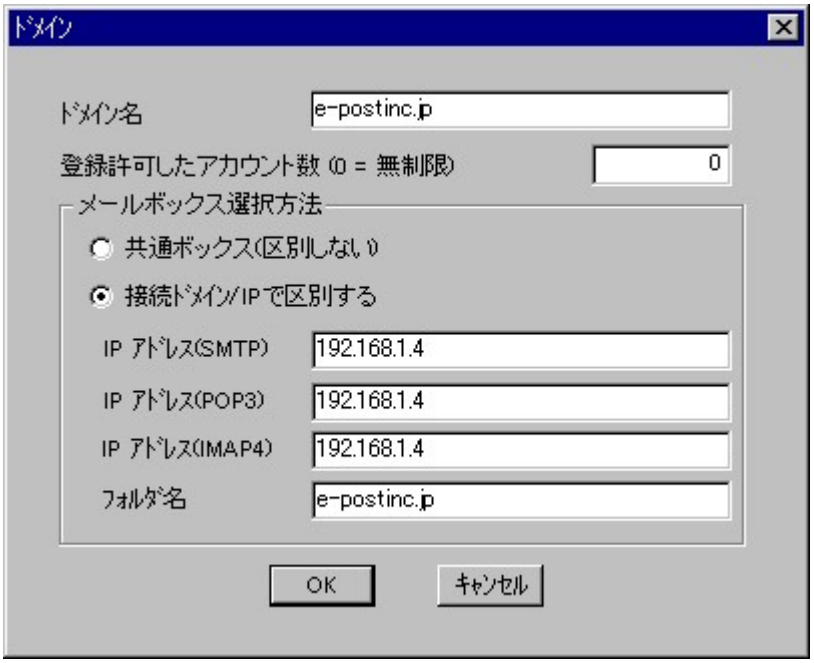
左表示エリアの[Domain Lists]をマウスで選択し、左ボタンにてダブルクリックが"＋"の表示をクリックすると設定ダイアログで設定したドメインが表示されます。



2. 運用ドメインの追加

左表示エリアの[Domain Lists]をマウスで選択し、右ボタンにてクリックすると選択メニューが表示されますので、「ドメイン追加」をマウスで選択し、左ボタンをクリックすると以下ダイアログが表示されます。

運用追加するドメイン(例　xxx.co.jp　など)をドメイン名に入力し、メールボックス選択方法を決定します。



操作パスワード

ドメイン別に管理者が異なる場合に、パスワードを設定し他の管理者から操作されないようにすることが出来ます。

登録許可したアカウント数(0 = 無制限):デフォルト　0

該当ドメインへのアカント登録制限を行いたい場合最大許可数を設定します。

1. 共通ボックス(区別しない)

以下の条件下で運用している場合選択してください。

a.Windows Accountにて運用

b.単一ドメインにて運用

2. 接続ドメイン/IPで区別する

Soft Accountで、マルチドメインにて運用する場合、ドメインに割当てられたIPアドレス(SMTP,POP3, IMAP4)およびメールボックスフォルダの指定で、%USERNAME%を指定している場合にドメイン別のフォルダを割当てられる為の、フォルダ名(任意)を指定します。

IPアドレス(SMTP) ： ドメインで割当てられたSMTPのIPアドレス。

IPアドレス(POP3) ： ドメインで割当てられたPOP3のIPアドレス。

IPアドレス(IMAP4) ： ドメインで割当てられたIMAP4のIPアドレス。

フォルダ名

「メールボックスフォルダ」で"%USERNAME%"を指定している場合に追加されるフォルダ名。

このフォルダ名で、"xxxx.co.jp"と指定していた場合、"¥xxx.co.jp¥%USERNAME%"　として扱われます。

注意) 上記設定にて**1IPでのマルチドメインとする場合**、POP3/IMAP4接続時のユーザー名を**"アカウント@ドメイン"**又は、"アカウント%ドメイン"として送信してください。

3. 運用ドメインの変更

左表示エリアの運用ドメイン一覧を表示し、変更したいドメイン名をマウスで選択し、右ボタンにてクリックすると選択メニューが表示されますので、「ドメイン変更」をマウスで選択し、左ボタンをクリックすると以下ダイアログが表示されますので、既存の設定内容を変更してください。

(ドメインをマウスで選択し左ボタンをダブルクリックしてもダイアログが表示されます。)

4. 運用ドメインの削除

左表示エリアの運用ドメイン一覧を表示し、削除したいドメイン名をマウスで選択し、右ボタンにてクリックすると選択メニューが表示されますので、「ドメイン削除」をマウスで選択すると一覧から削除されます。

（ドメインをマウスで選択し"Delete"キーを押すことでも削除がされます。）

注意） 運用ドメインの[追加・変更・削除]を実施した場合は、設定完了後、サービス全て（EPSTRS,EPSTDS,EPSTPOP3S,EPSTIMAP4）を再起動しなければ有効になりません。

5. アカウントの一覧

左画面の運用ドメイン一覧を表示し、一覧したいドメイン名をマウスで選択し、右ボタンにてクリックすると、右表示エリアに既存のアカウント一覧が表示されます。

6. アカウントの追加

一覧されている状態で、右表示エリアへマウスを移動し、右ボタンにてクリックすると、メニューが表示されますので「アカウント追加」を選択してください。

選択されると、上記のダイアログが表示されますので、各項目を設定して「OK」ボタンを押すと、アカウントが追加されます。（半角英数字でエントリーしてください。）

アカウント ： 追加するメールアカウントをエントリーします。 必須項目　例)Taro

パスワード ： 任意のパスワードをエントリーします。必須項目

フルネーム ： 追加するメールアカウントの使用者等の氏名をエントリー。 例)Yamada, Taro

ホーム ： メールボックスフォルダの指定で、%HOME%が定義されている場合、ここで指定したパスが割当てられます。

ドメイン ： 追加するメールアカウントのドメインをエントリーします。 必須項目。

メールボックスサイズ制限 ： アカウントに対するメールボックスの保管サイズをバイト単位で指定します。（Default:0）（0＝制限なし）

SMTP-AUTH ＆ APOPを使用 ： 追加するメールアカウントで、SMTP認証および、APOP認証を利用したい場合、チェックします。

POP3無効 ： POP3の利用をこのアカウントで禁止にする場合チェックします。

IMAP4無効 ： IMAP4の利用をこのアカウントで禁止にする場合チェックします。

'#Shared/"フォルダ ： IMAP4で利用する共有フォルダをフルパスにて指定します。（空白の場合、共有フォルダは利用不可となります）

書込み許可 ： IMAP4で利用する共有フォルダへの書込みを許可する場合にチェックします。

7. アカウントの変更

一覧されている状態で、右表示エリアへマウスを移動し、変更したいアカウントをマウスで選択し左ボタンを押すと表示色が変化します。その後、右ボタンにてクリックすると、メニューが表示されますので「アカウント変更」を選択してください。

設定されている内容を表示したダイアログが表示されますので、変更項目を設定して「OK」ボタンを押すと、アカウントに関する変更が行われます。

（アカウントをマウスで選択し左ボタンをダブルクリックしても、ダイアログが表示されます。）

8. アカウントの削除

一覧されている状態で、右表示エリアへマウスを移動し、削除したいアカウントをマウスで選択し左ボタンを押すと表示色が変化します。その後、右ボタンにてクリックすると、メニューが表示されますので「アカウント削除」を選択してください。

（アカウントをマウスで選択し"Delete"キーを押すことでも削除がされます。）

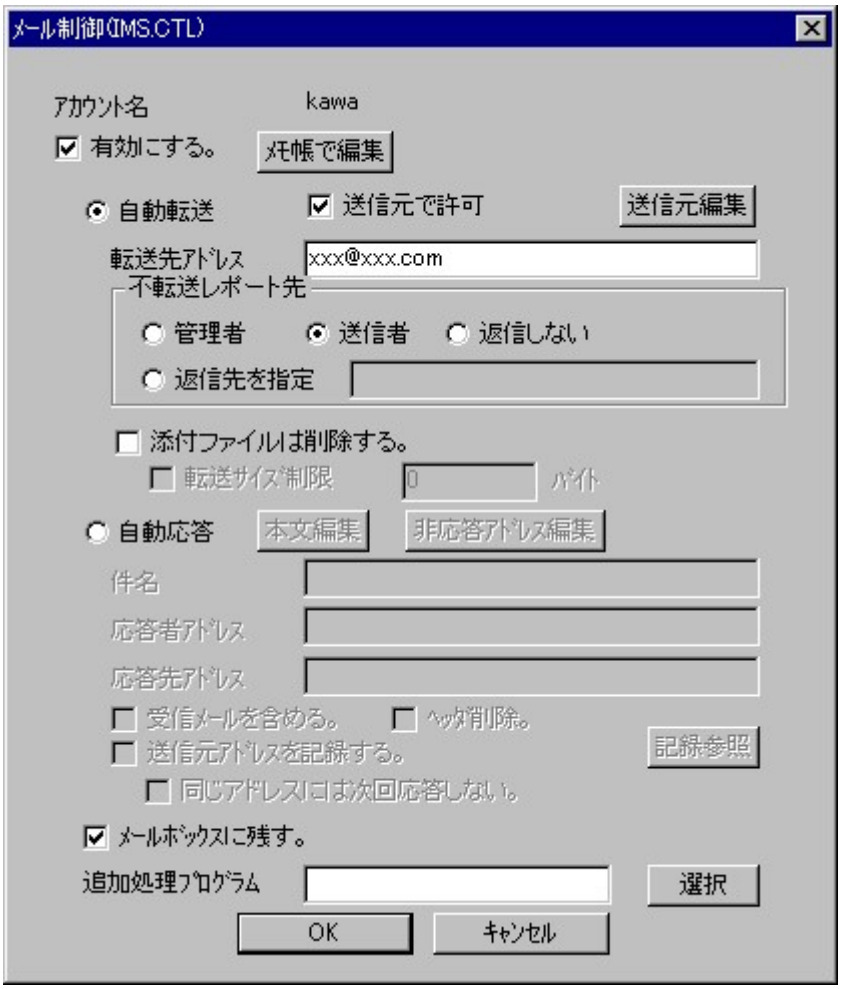
９．メール制御

一覧されている状態で、右表示エリアへマウスを移動し、メール制御したいアカウントをマウスで選択し左ボタンを押すと表示色が変化します。その後、右ボタンにてクリックすると、メニューが表示されますので「メール制御」を選択すると以下ダイアログが表示されますので、目的に応じて設定を行いますとIMS.CTLファイルが自動作成され保存されます。

Ｉ．自動転送

メールユーザーは、メッセージの自動転送設定ができます。

アカウントマネージャよりアカウントを選択し右ボタンクリックしますとメニューに表示された、「メール制御」を選択し表示された設定ダイアログより自動転送の設定が可能になります。



送信元で許可

本項目をチェックしない場合は、全てのメールをが転送されます。

本項目をチェックした場合は、[送信元編集(PERMITFROM.TXT)]で指定した送信元アドレスからのメールのみ転送が行われます。

転送先アドレス

１つの転送先アドレスの場合は、そのアドレスを直接記入します。

複数の転送先を指定する場合は、転送先一覧を記載したファイル名をアドレスと区別する為"FILE:"とつけて指定します。

また、転送先一覧ファイル内の書式は、1行1アドレスとして記述します。

例) c:¥forward¥address.txt (ファイル名は任意)に複数アドレスを指定する場合。

転送先アドレス欄 : file:c:¥forward¥address.txt

address.txtの内容

----

xxx1@xxxx.co.jp

xxx2@xxxx.co.jp

:

xxxn@xxx.co.jp

不転送レポート先

転送先に届けられなかった場合の「送信不能メール」の送付先を指定します。

なお、本設定は、「送信元エンベロープ」として転送時に利用されます。

管理者

送信元を管理者アカウントとし転送を行い、転送できない場合に「送信不能メール」を管理者アカウントに送ります。

送信者

送信元を変更せず転送を行い、転送できない場合に「送信不能メール」を送信元に送ります。

返信しない

送信元を"<>"(空欄)とし転送を行い、転送できない場合に「送信不能メール」を送信しません。

返信先を指定

送信元を指定したアドレスとして転送を行い、転送できない場合に「送信不能メール」を指定したアドレスに送ります。

添付ファイルは削除する

転送時の添付ファイルの扱いを指定します。

転送サイズ制限

本項目をチェックしない場合は、添付ファイルも含んだ全ての内容が転送されます。

本項目をチェックした場合は、本文の転送サイズをバイト単位で指定することが出来ます。

0バイトを指定した場合は、メールヘッダーのみが転送されます。

メールボックスに残す。

チェックされていると、転送時にメールボックスにメールが残ります。

なお、手作業などで別途、IMS.CTLの内容を操作する場合は、テキストエディタにて編集を行うことも可能です。

自動転送の方法は、ユーザーのメールボックス毎にファイルを設定します。

以下のファイルを設定してください。

IMS.CTL : 自動応答を指定するコントロールファイルです。

設定例:すべてのメッセージをabc@def.co.jpに転送する。

IMS.CTL:

[AutoForward]

ForwardTo = abc@def.co.jp

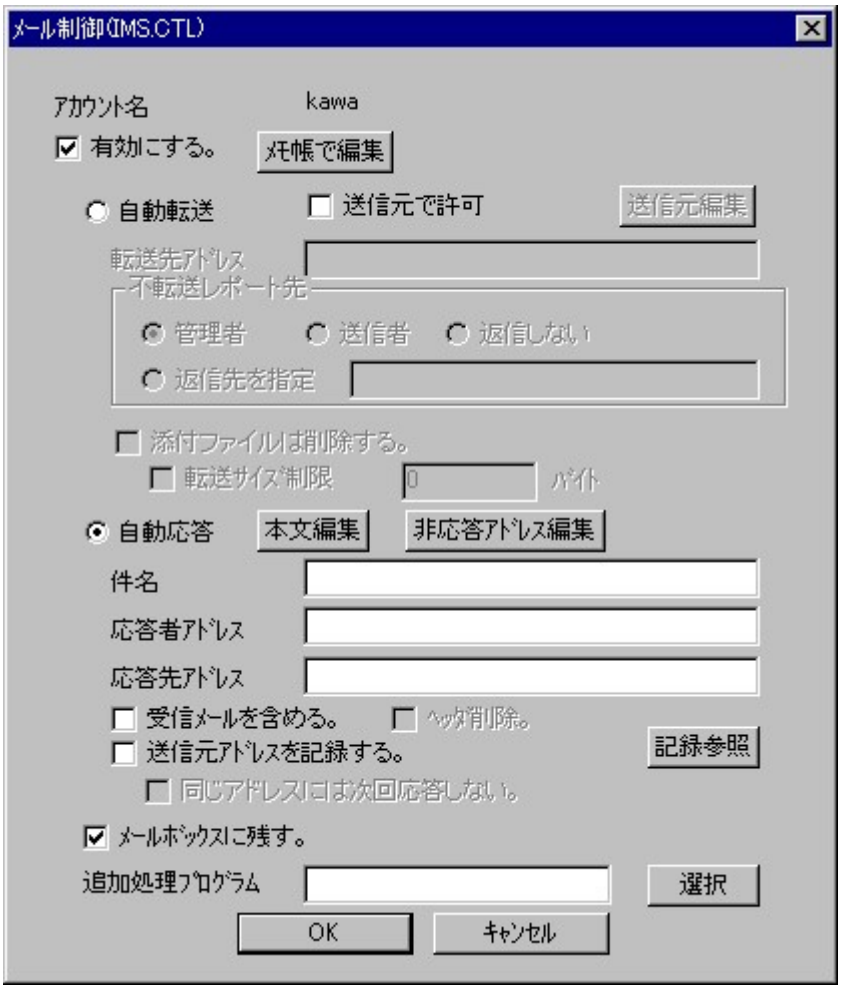
[Delivery]

Discard = Yes

Ⅱ. 自動応答

メールユーザーは、メッセージの自動応答設定ができます。

アカウントマネージャよりアカウントを選択し右ボタンクリックしますとメニューに表示された、「メール制御」を選択し表示された設定ダイアログより自動応答の設定が可能になります。



本文編集(AUTORPLY.TXTの編集)

自動応答用のメッセージを編集します。

日本語の場合、このメッセージ内容はJISコードに置換えなくてはいけません。

非応答アドレス編集(NOREPLY.TXTの編集)

自動応答をしない特定のメールアドレスを、このファイルに指定し、保存してください。

たとえば、メーリングリストから来たメールに対し応答することは、マナー違反のため、ここに指定しておきます。

件名

返信時の件名を変更したい場合に指定します。

日本語の場合、この内容はJISコードに置換えなくてはいけません。

応答者アドレス

返信時の返信元アドレスを変更したい場合に指定します。

応答先アドレス

返信時の返信先を変更したい場合に指定します。

受信メールを含める

本項目をチェックしない場合は、返信時のメールに自動応答用のメッセージのみが返信されます。

本項目をチェックした場合は、返信時のメールに自動応答用のメッセージと受信内容を含めた内容が返信されます。

ヘッダ削除

本項目をチェックしない場合は、受信内容についてヘッダを含めます。

本項目をチェックした場合は、受信内容についてヘッダは含めません。

送信元アドレスを記録する(REPLIED.TXTへの記録)

本項目をチェックしない場合は、REPLIED.TXTへの送信元アドレスの記録を行いません。

本項目をチェックした場合は、REPLIED.TXTへの送信元アドレスの記録を行います。

同じアドレスには次回応答しない(NOREPLY.TXTへの記録)

本項目をチェックしない場合は、NOREPLY.TXTへの送信元アドレスの記録を行いません。

本項目をチェックした場合は、NOREPLY.TXTへの送信元アドレスの記録を行います。

なお、手作業などで別途、IMS.CTLの内容を操作する場合は、テキストエディタにて編集を行うことも可能です。

自動応答の方法は、ユーザーのメールボックス毎にファイルを設定します。

以下のファイルを設定してください。

IMS.CTL　　：自動応答を指定するコントロールファイルです。

AUTORPLY.TXT ：自動応答用のメッセージを保存して下さい。

NOREPLY.TXT ：自動応答をしない特定のメールアドレスを、このファイルに指定し、保存してください。

たとえば、メーリングリストから来たメールに対し応答することは、マナー違反のため、ここに指定しておきます。

REPLIED.TXT ：EPSTDSにより、"RecordReplies"フラグが"IMS.CTL"にセットされている時、自動応答アドレスに送信したメールアドレスが、このファイルに作成されます。

設定例1：休暇案内

IMS.CTL: [AutoReply]

RecordReplies=Yes

Subject=It is during vacation

AUTORPLY.TXT: (記述後、JISコードに置換えて保存してください。)

メールを頂き有り難う御座います。

現在、8月5日まで休暇のため、このメールは現在、自動応答としています。

NOREPLY.TXT: abc@xxx.co.jp

設定例2：移動案内

IMS.CTL: [AutoReply]

ReplyFrom=Postmaster@abc.co.jp

EchoMessage=Yes

Subject=It moved

[Delivery]

Discard=Yes

AUTORPLY.TXT: (記述後、JISコードに置換えて保存してください。)

鈴木さんは組織 ABCから移動し、移動先アドレスは"suzuki@bcd.co.jp"となりました。

"suzuki@abc.co.jp"へはメールを送らない様お願いいたします。

NOREPLY.TXT:def@ghi.co.jp

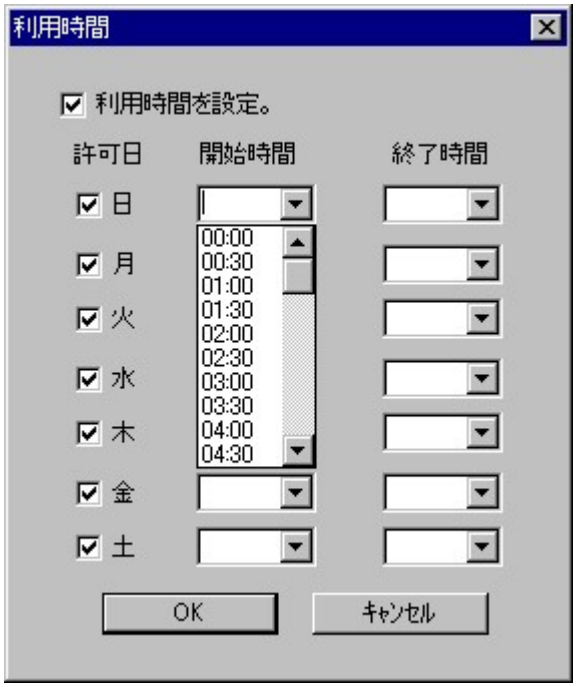
10. メールフィルタ

フィルタしたい条件についてメールの特徴を記述して一致する場合指定した処置を施すためのユーザ個別のフィルタテーブルです。 たとえば、不要な広告メール、嫌がらせのメール、デマメールなどもその特徴を記述することによりサーバー上にて受信を防ぐことが可能になります。 テーブルへの記述方法は、メールフィルタと同じです。

11. 利用時間設定

一覧されている状態で、右表示エリアへマウスを移動し、利用時間設定したいアカウントをマウスで選択し左ボタンを押すと表示色が変化します。

その後、右ボタンにてクリックすると、メニューが表示されますので「利用時間設定」を選択すると以下ダイアログが表示されますので、該当するユーザの利用可能な時間を設定することができます。



12. 送信先制限

ユーザ毎に送信先を制限する場合、許可する送信先を定義するテーブルです。 記述方法は、送信許可を行う送信先を1行毎に設定します。 許可するアドレスには、'*'ワイルドカード指定も可能です。 また、テーブルに許可する送信先が無いか、設定テーブルが存在しない場合は、送信先制限は無効になります。

例）特定のアドレス(user2@domain.co.jp, user2@domain.co.jp)のみに送信を可能にする場合

user1@domain.co.jp

user2@domain.co.jp

例）特定のドメイン宛(domain.co.jp)のみに送信を許可する場合

*@domain.co.jp

13. アカウントのインポート

一覧されている状態で、右表示エリアへマウスを移動し、右ボタンにてクリックすると、メニューが表示されますので「アカウントインポート」を選択してください。

選択するとインポートするファイルの選択ダイアログが表示されますので、選択すると、インポートが開始されます。

14. アカウントのエクスポート

一覧されている状態で、右表示エリアへマウスを移動し、右ボタンにてクリックすると、メニューが表示されますので「アカウントエクスポート」を選択してください。

選択するとエクスポートするファイルの選択ダイアログが表示されますので、選択すると、エクスポートが開始されます。

注意） ユーザーアカウントのインポート・エクスポートのファイルはタブ区切りのテキスト形式です。

ユーザーアカウントのインポート・エクスポートファイルの保存形式

ｱｶｳﾝﾄ<TAB>ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ<TAB>ﾌﾙﾈｰﾑ<TAB>ﾄﾞﾒｲﾝ名<TAB>ﾎｰﾑﾌｫﾙﾀﾞ<TAB>SMTP認証ﾌﾗｸﾞ<TAB>APOP認証ﾌﾗｸﾞ<TAB>MailBox制限ｻｲｽﾞ

:

ｱｶｳﾝﾄ<TAB>ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ<TAB>ﾌﾙﾈｰﾑ<TAB>ﾄﾞﾒｲﾝ名<TAB>ﾎｰﾑﾌｫﾙﾀﾞ<TAB>SMTP認証ﾌﾗｸﾞ<TAB>APOP認証ﾌﾗｸﾞ<TAB>MailBox制限ｻｲｽﾞ

メールでのメーリングリストの制御

メーリングリスト詳細設定後の参加、退会は、"メーリングリスト名-request@ドメイン"宛てのメールへ、本文に以下のコマンドを記入し送信することにより実施が行えます。

メーリングリストグループへの参加方法

入会コマンド（JOIN または、 SUBSCRIBE）

例1） JOIN

本文にJOINまたは、SUBSCRIBEのみにて送信すると、送信元のメールアドレスが該当メールグループに参加されます。

例2） JOIN test-ml

本文にJOINまたは、SUBSCRIBEに続き、空白を挟んで、メーリングリスト名を書き加えて送信すると、送信元のメールアドレスが該当メールグループに参加されます。

例3） JOIN test-ml abc@abc.co.jp

本文にJOINまたは、SUBSCRIBEに続き、空白を挟んで、メーリングリスト名<空白>メールアドレス、を書き加えて送信すると、メーリングリスト名に続き記入されたメールアドレスが該当メールグループに参加されます。

メーリングリストグループからの退会方法

退会コマンド（LEAVE または、 UNSUBSCRIBE）

例1） LEAVE

本文にLEAVEまたは、UNSUBSCRIBEのみにて送信すると、送信元のメールアドレスが該当メールグループより退会されます。

例2） LEAVE test-ml

本文にLEAVEまたは、UNSUBSCRIBEに続き、空白を挟んで、メーリングリスト名を書き加えて送信すると、送信元のメールアドレスが該当メールグループより退会されます。

例3） LEAVE test-ml abc@abc.co.jp

本文にLEAVEまたは、UNSUBSCRIBEに続き、空白を挟んで、メーリングリスト名<空白>メールアドレス、を書き加えて送信すると、メーリングリスト名に続き記入されたメールアドレスが該当メールグループより退会されます。

メンバー一覧の取得（管理者アドレスからのみ有効）

LISTコマンド

本文にLISTのみにて送信すると、送信元のメールアドレスへ該当リストの登録メンバー一覧がメールにて返信されます。

ARTICLE INDEXコマンド （記事表題一覧の取得）

本文に本命を記述し送信すると、送信元のメールアドレスへ該当メーリングリストの過去記事の表題がメールにて返信されます。

注意） 本コマンドは、詳細設定の「投稿内容の保存」設定が行われていないと処理されません。

例1） ARTICLE INDEX 又は ARTICLE INDEX ALL

該当メーリングリストの過去記事の表題一覧全てが返信されます。

例2） ARTICLE INDEX 100

該当メーリングリストの過去記事の連番(100)の表題が返信されます。

例3） ARTICLE INDEX 100-200

該当メーリングリストの過去記事の連番(100～200)までの表題一覧が返信されます。

ARTICLE LISTコマンド（記事の取得）

本文に本命を記述し送信すると、送信元のメールアドレスへ該当メーリングリストの過去記事がメールにて返信されます。

注意） 本コマンドは、詳細設定の「投稿内容の保存」設定が行われていないと処理されません。

例1） ARTICLE LIST 又は ARTICLE LIST ALL

該当メーリングリストの過去記事全てが返信されます。

例2） ARTICLE LIST 100

該当メーリングリストの過去記事の連番(100)の記事が返信されます。

例3） ARTICLE LIST 100-200

該当メーリングリストの過去記事の連番(100～200)までの記事全てが返信されます。

ARTICLE DELETEコマンド（記事の削除（管理者アドレスからのみ有効））

本文に本命を記述し送信すると、該当メーリングリストの過去記事が保存先から削除されます。

注意） 本コマンドは、詳細設定の「投稿内容の保存」設定が行われていないと処理されません。

例1） ARTICLE DELETE 又は ARTICLE DELETE ALL

該当メーリングリストの過去記事全てが保存先から削除されます。

例2） ARTICLE DELETE 100

該当メーリングリストの過去記事の連番(100)の記事が保存先から削除されます。

例3） ARTICLE DELETE 100-200

該当メーリングリストの過去記事の連番(100～200)までの記事全てが保存先から削除されます。

HELPコマンド（コマンド一一覧の取得）

本文にHELPのみにて送信すると、送信元のメールアドレスへML制御命令の一覧がメールにて返信されます。

STOPコマンド（コマンドの終了指定）

本文にSTOPを記入することにより、STOP以降の記述は無視されて処理を行うようにします。

クラスタ化の設定方法について

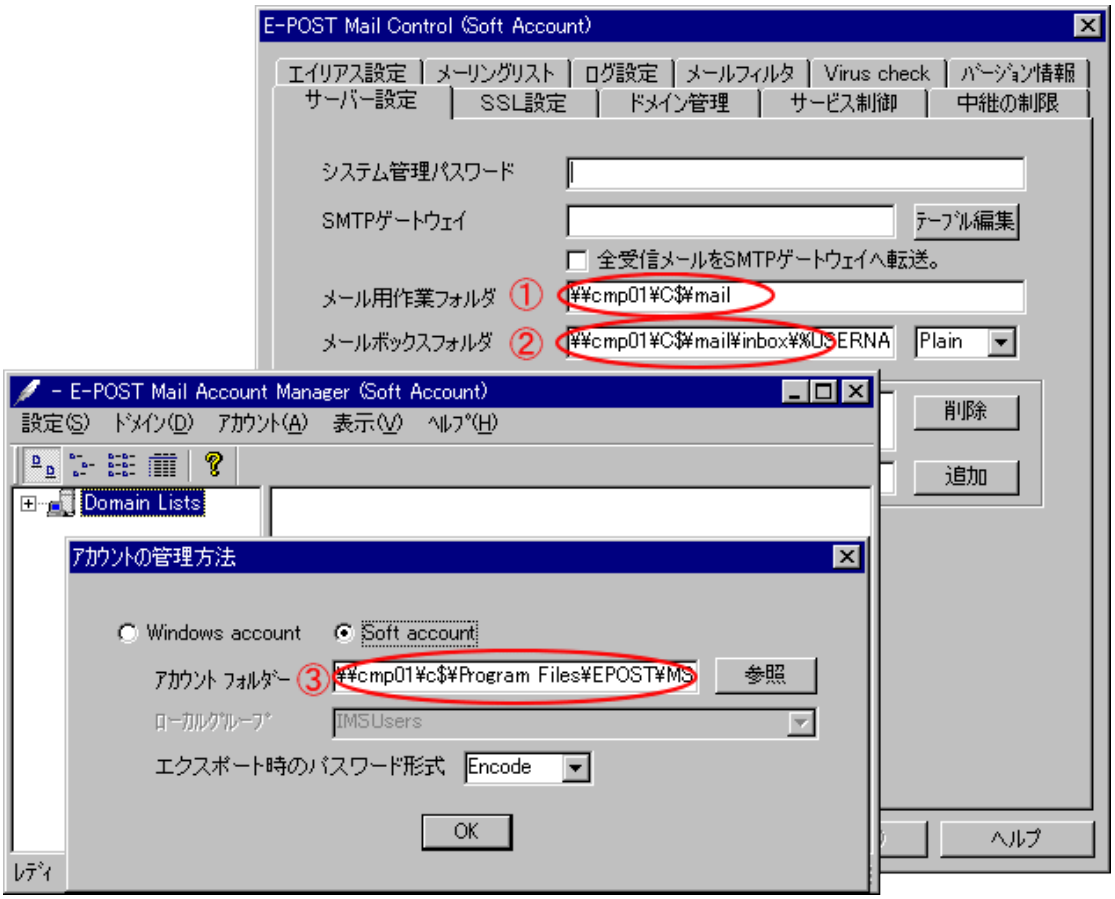
「E-Post Mail Server」では以下３点について操作を行うことで、構成したハード環境でダイレクトなクラスタリング（フェールオーバー・負荷分散・配送性能の増強）が実現します。

1. サービスのログオンは、**Localsystem** でなく、**Administrator** で登録すること。

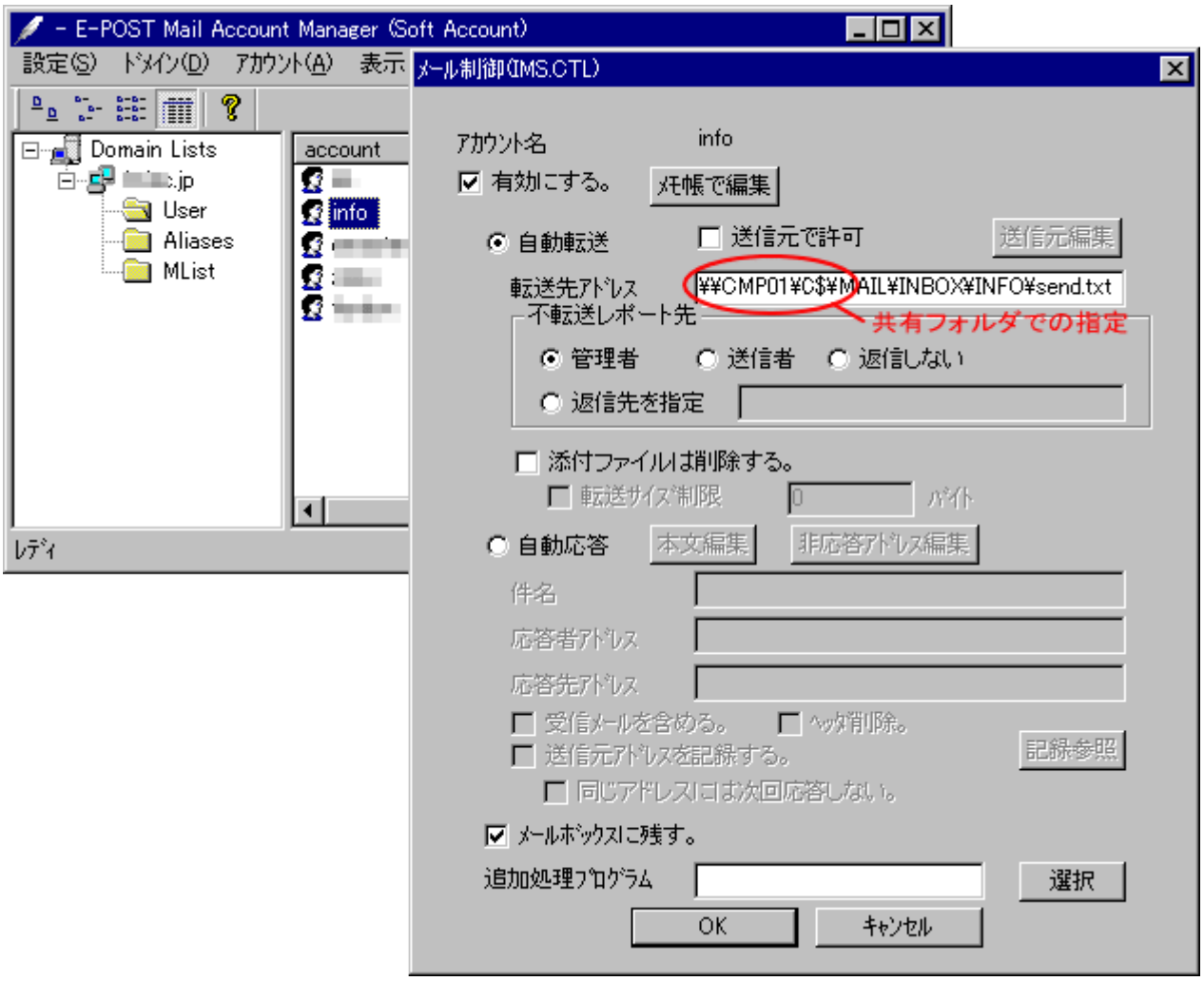
注意）
設定したアカウントに対するパスワードを間違えますとサービスが起動できなくまります。
パスワードを 間違えた場合は一旦サービスを「削除」し「登録」を押しますと再入力が可能になります。

2. 以下の3項目を各マシンより参照可能な UNC 名による共有フォルダに割り当て運用すること。

    1. 「メール作業フォルダ」
    2. 「メールボックスフォルダ」
    3. 「アカウントフォルダ」



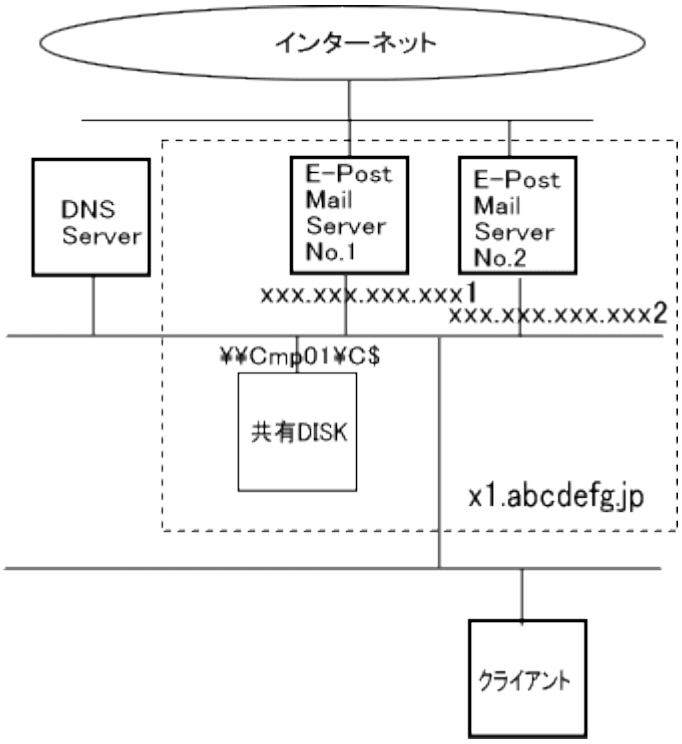
3. アカウントに転送指定ファイルがエントリされている場合は、各マシンより参照可能な UNC 名による共有フォルダに割り当て直すこと。



LAN内環境でのメールサーバーの負荷分散設定例

メールサーバーとメールクライアント間は、ロードバランサ（負荷分散装置）を中間に置くことにより、負荷分散、フェールオーバーを実現できますが、このような装置が入手できない場合は、以下のような設定方法にて擬似的に接続の負荷分散、フェールオーバーを実施可能です。

構成イメージ



手順 1. DNS サーバーへの設定

メールサーバーの名前解決可能なようにクライアントが利用している DNS サーバーの A レコードに設置した複数の「E-Post Mail Server」の各IPアドレスを登録し DNS からの名前解決にてラウンドロビンでの回答を可能にします。

設定例）メールサーバー名 -> x1.abcdefg.jp とした場合

DNS A レコードの設定

---------- ここから ----------

x1.abcdefg.jp. IN A xxx.xxx.xxx.xx1 ← E-Post Mail Server 1

A xxx.xxx.xxx.xx2 ← E-Post Mail Server 2

---------- ここまで ----------

手順 2. Windows クライアントマシンの設定

2-1. Windows クライアントの DNS キャッシュ機能を無効にします。

DOS プロンプトより、

net stop dnscache

と実行し正常終了したら、**ping x1.abcdefg.jp** を複数回実行し、IPアドレスが変化することを確認します。

2-2 メールクライアント設定

2-2-1 接続(SMTP/POP3/IMAP4)サーバーをIPアドレスより、名前(x1.abcdefg.jp)に置き換えます。

2-2-2 ログインIDを**ドメイン**を付けたアカウントに置換えます。

例) ID が abc の場合 → **abc@e-postinc.jp**

以上で設定が完了しました。

上記のように環境を設定しますと、メールクライアント側からの送受信が通常接続(セッション)毎に接続先IPアドレスが切り替わり送受信の**負荷分散**が実現します。

なお、片方のメールサーバーが落ちた場合は、本設定では、1回おきにエラーが発生することになりますが、送受信が完全に不能になることはなくなります。(**フェールオーバー**)

上記設定で問題なく動作が確認されたメールクライアント例

基本的には、接続サーバーを FQDN で指定できるメールクライアントでは問題なく運用できます。

以下は、弊社にて確認したメールクライアントの一例です。

Becky! 2.x -> ○

Edmax -> ○

Winbiff2.x -> ○

ALMail32 -> ○

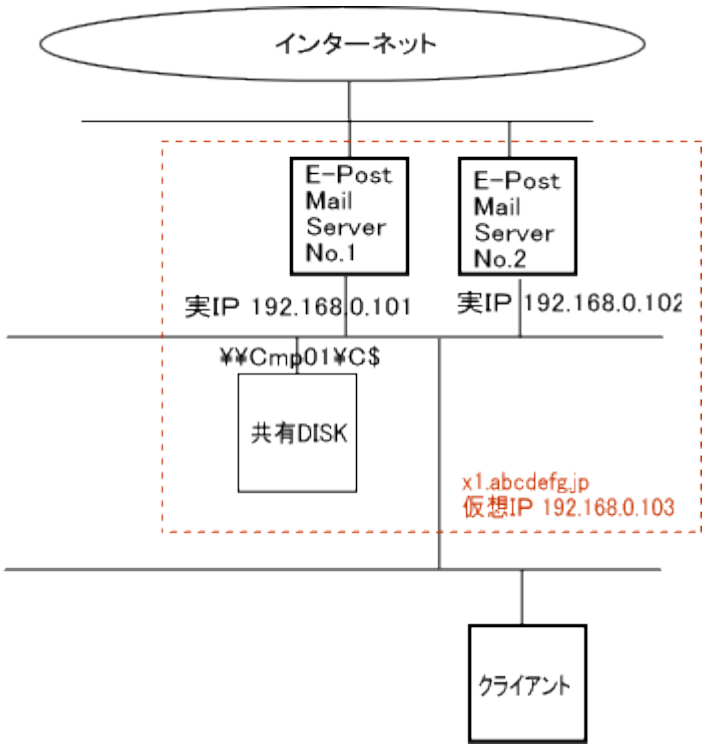
MS-Outlook -> △ Outlook は 1 度立ち上がって接続した IP アドレスをキャッシュしてしまうので、再接続の際は、**終了→起動** しないと接続 IP が切り替わりません。

LAN内環境でのメールサーバーのフェールオーバー設定例

付属の IPWCS.EXE(E-Post IP Watcher サービス)を設定することにより、相手のメールサーバーマシンがアクティブか否かを監視し、相手がダウンしている場合は、ダウンマシンのIPアドレスを引き受け受信を継続することにより、クライアント側からはメールサーバーマシンの長期ダウンを感じさせない環境の構築が可能です。

注） 本サービス(IPWCS.EXE)は IPv4 環境のみ有効です。

構成イメージ



メールサーバー1の実IP 192.168.0.101

メールサーバー2の実IP 192.168.0.102

メールサーバー(x1.abcdefg.jp)とする仮想IP 192.168.0.103

E-Post IP Watcher サービスの設定（メールサーバー1・2共通）

1.使用しているレジストリ値で（マスタサーバーか・スレーブサーバー）を確認します。登録したサービスを制御する為に利用するレジストリ値は以下の通りです。

レジストリエディタで目的に応じて調整することが出来ますので、マスタサーバーとなる場合は、Balance 値を'0'（インストール時のデフォルト値）になっているか確認してください。

また、スレーブ（待機）サーバーとなる場合は、Balance 値を'1'に変更します。

こうすると、マスタサーバーが電源ダウンや、回線が外れたりして、仮想（論理）IPへの接続が出来なくなるとスレーブサーバーが、仮想（論理）IPを取得し、メールサーバー機能を維持できるようになります。

また、マスタサーバーの接続状態回復後、仮想（論理）IPを自動的に開放する設定として機能します。

HKEY_LOCAL_MACHINE

→ SOFTWARE

→ EPOST

→ IPWCS

→ LogEnabled (DWORD)　動作ログの採取 0:しない, 1:する

→ Interval　(DWORD)　仮想IP監視間隔（秒） デフォルト 30 秒

→ Balance　(DWORD)　定期的に仮想IPを開放する 0:しない(Master Server), 1:する(Slave Server)

→ ReleaseTime(DWORD)　仮想IP開放サイクル　デフォルト 60 回毎(×Interval 値(30)) = 約 1800 秒毎

→ PingTimeout(DWORD)　監視先マシンの無応答タイムアウト時間（秒） デフォルト 3 秒

2.DOSプロンプトで、「E-Post Mail Server」のインストールフォルダをカレントフォルダとして開きます。

cd ″c:¥program files¥epost¥ms¥″<cr>

3.監視用テーブルの作成

DOSプロンプトにて、以下のコマンドを実行し相手のマシン情報を設定します。

ipwcs -entry<cr>

監視テーブルの作成 [0:新規, 1:追加] = 0<cr>

ペアとなるコンピュータ名 (例. ¥¥SV01) = ¥¥SV01<cr>

監視するIPアドレス (例. 192.168.0.2) = 192.168.0.103<cr> ← 仮想 IP を指定します。

ネットーワーク構成名 (例. "ローカル エリア接続") =ローカル エリア接続<cr>

設定してよろしいですか？ [y/n] = y<cr>

4.動作確認

DOSプロンプトにて、以下のコマンドを実行し相手のマシンの監視が行えるか動作を確認します。

ipwcs -debug<cr>

Debugging E-POST IP Watcher.

[13/Jul/2005:18:00:26] E-POST IP Watcher (1.00)

Wed, 13 Jul 2005 18:00:26 +0900

[13/Jul/2005:18:00:26] ConnectNamedPipe(hPipe = 000003b8)

[13/Jul/2005:18:00:26] c:¥program files¥epost¥ms¥ipwatch.dat

[13/Jul/2005:18:00:26] c:¥program files¥epost¥ms¥ipwatch.dat open is success.

[13/Jul/2005:18:00:26] -i=192.168.0.103

[13/Jul/2005:18:00:26] [00000000] -i=192.168.0.103

[13/Jul/2005:18:00:26] 192.168.0.103

[13/Jul/2005:18:00:26] p = [00000000]

[13/Jul/2005:18:00:26] GetOption() end.

[13/Jul/2005:18:00:26] GetOption end.

[13/Jul/2005:18:00:26] Watch ¥¥cmp01.

[13/Jul/2005:18:00:28] Not found ¥¥cmp01.

[13/Jul/2005:18:00:28] Check IP addrr 192.168.1.xx2

[13/Jul/2005:18:00:28] ipcheck 192.168.0.103

[13/Jul/2005:18:00:28] Active IP. (192.168.0.103)

キーボードの Ctrl キーと C キー を同時に押して停止させます。

SERVICE_CONTROL_STOP in debug mode.

Stopping E-POST IP Watcher.

[13/Jul/2005:18:02:51] Service Stoped.

[13/Jul/2005:18:02:51] dwWait = 0 / bServiceTerminating = 1

[13/Jul/2005:18:02:51] cleanup

[13/Jul/2005:18:02:51] CloseHandle(hPipe = 000003b8)

[13/Jul/2005:18:02:51] CloseHandle(hServerStopEvent = 000003c0)

[13/Jul/2005:18:02:51] CloseHandle(hEvents[1] = 000003bc)

[13/Jul/2005:18:02:51] free(pSD = 00370758)

5.サービスとして登録

DOSプロンプトにて、IPWS.exe をサービスとして登録します。

ipwcs -install<cr>

ログインアカウント (例. sv01¥¥Administrator) =sv01¥administrator ← マシンの Administrator アカウントを入力

ログインパスーワード=******* ← パスワードを入力**

E-POST IP Watcher installed.

6.サービスとして開始

登録したサービスをDOSプロンプトより開始させると監視が始まります。

正しく設定されていると以下のように開始のメッセージは表示されます。

net start "E-POST IP WATCHER"<cr>

E-POST IP Watcher サービスを開始します.<cr>

E-POST IP Watcher サービスは正常に開始されました。<cr>

6.使用しているレジストリ値

登録したサービスを制御する為に利用するレジストリ値です。

レジストリエディタで目的に応じて調整することが出来ます。

HKEY_LOCAL_MACHINE

→ SOFTWARE

→ EPOST

→ IPWCS

→ LogEnabled (DWORD) 動作ログの採取 0:しない, 1:する

→ Interval (DWORD) 監視間隔(秒) デフォルト 30 秒

→ Balance (DWORD) 定期的に仮想IPを開放する 0:しない, 1:する

→ ReleaseTime(DWORD) 仮想IP開放サイクル デフォルト 60 回毎(×Interval 値(30)) = 約 1800 秒毎

→ PingTimeout(DWORD) 監視先マシンの無応答タイムアウト時間(秒) デフォルト 3 秒

E-Post Mail Server の設定（メールサーバー1）

各サービス（EPSTRS,EPSTDS,EPSTPOP3S,EPSTIMAP4S）のログオンは、Localsystem でなく、Administrator で登録し直してください。

注意） 設定したアカウントに対するパスワードを間違えますとサービスが起動できなくまります。

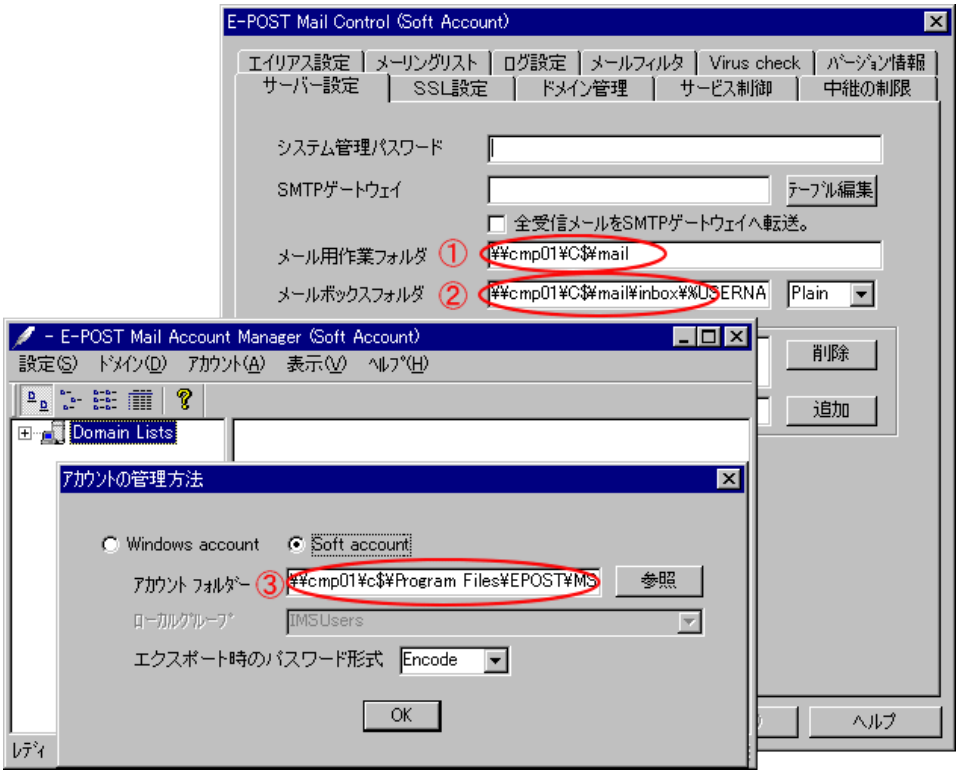
パスワードを 間違えた場合は一旦サービスを「削除」し「登録」を押しますと再入力が可能になります。

以下の3項目を各マシンより参照可能な UNC 名による共有フォルダに割り当てます。

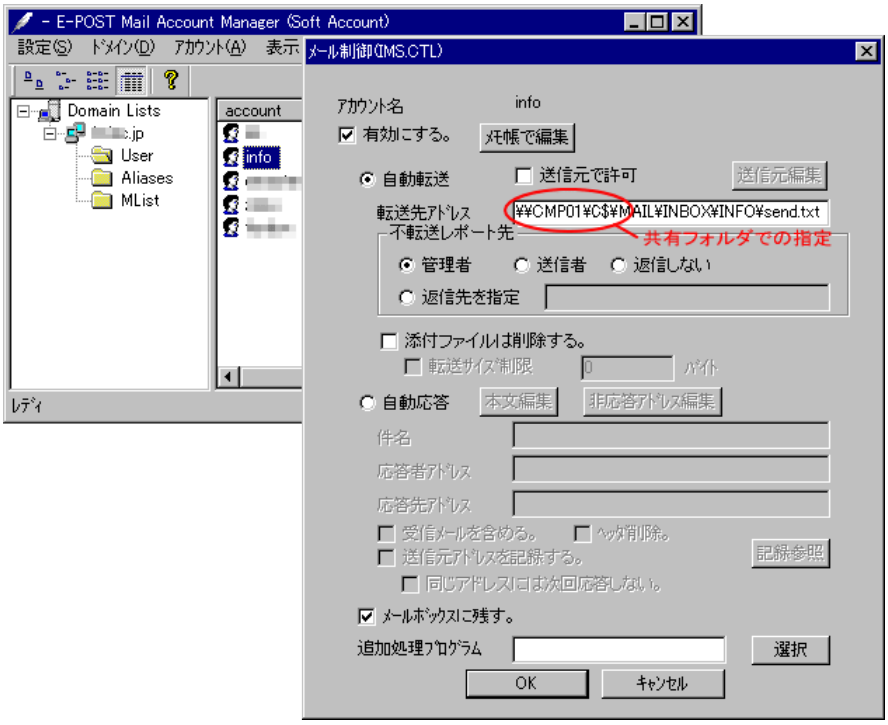
「メール作業フォルダ」

「メールボックスフォルダ」

「アカウントフォルダ」



アカウントに転送指定ファイルがエントリされている場合は、各マシンより参照可能な UNC 名による共有フォルダに割り当て直します。

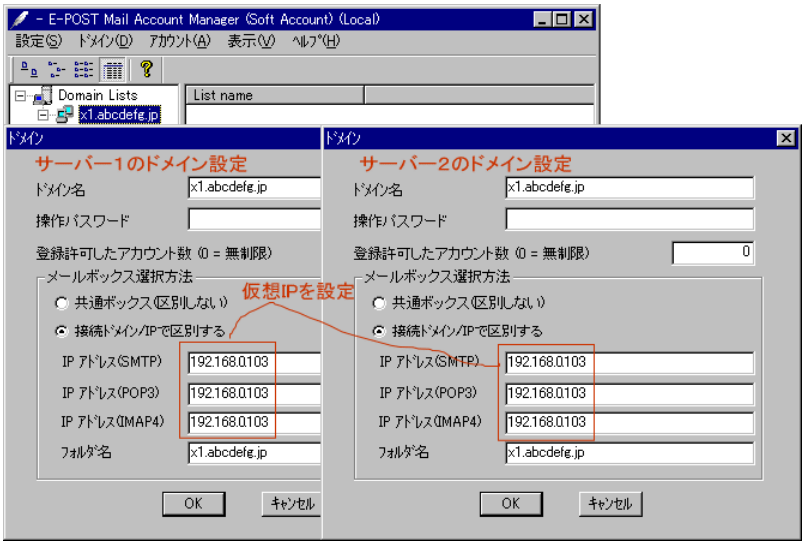


[E-Post Mail Control]アイコンをダブルクリックして起動し設定ダイアログを開きます。

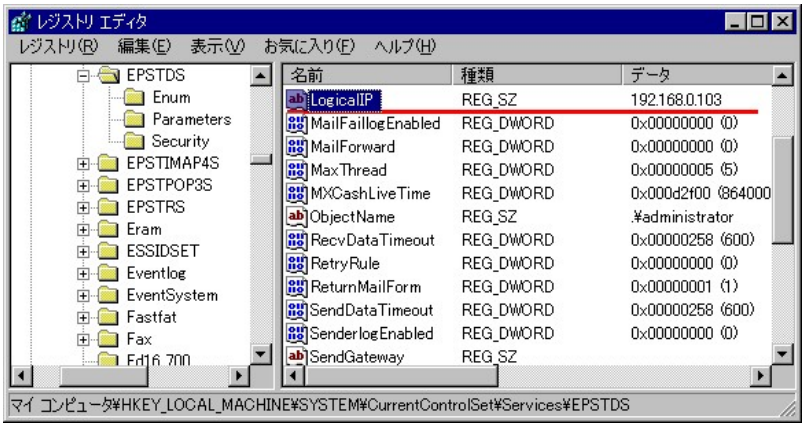
[サービス制御]の各サービス(EPSTRS/EPSPOP3S/IMAP4S)について[IP Address]欄には、"*.*.*.*"とワイルドカード指定を行います。

[ドメイン管理]の詳細ダイアログについて[IP Address]欄には、待機マシンもセカンダリとして利用したい場合は、"実IP" "仮想IP"と半角スペースを区切りとして指定します。

若しくは、 "仮想IP"のみを設定すると、片方のメールサーバーが「待機マシン」となります。



次に、両マシンの EPSTDS 動作が仮想IP取得時のみ動作するようにする場合は、以下のレジストリ値を作成し、仮想IP（192.168.0.103）を設定しておきます。



HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥EPSTDS¥LogicalIP

HKEY_LOCAL_MACHINE

→ SYSTEM

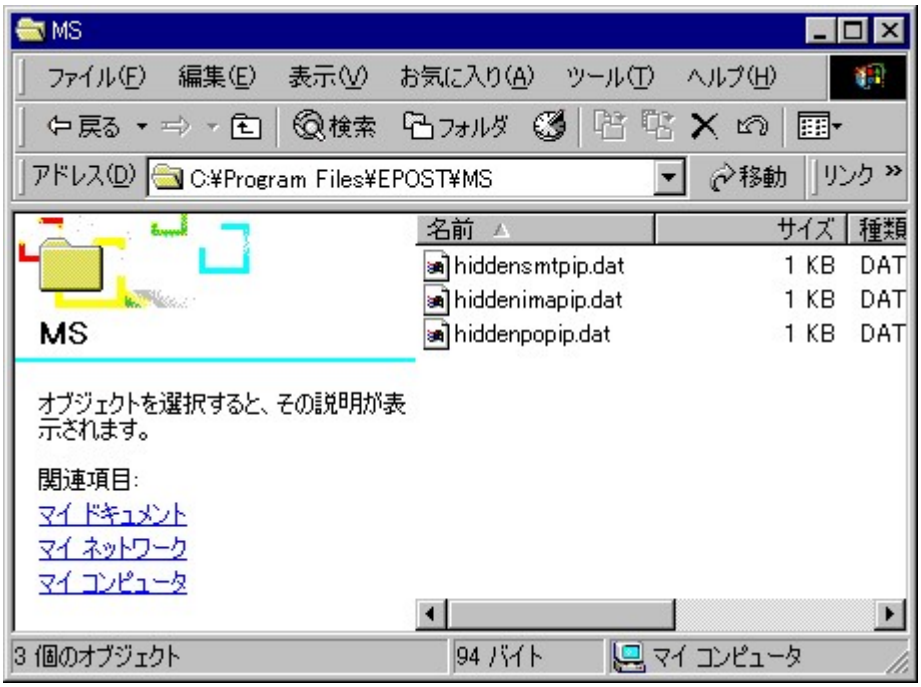
→ CurrentControlSet

→ Services

→ EPSTDS

→ LogicalIP (文字列) 192.168.0.103 を設定

最後に、各マシンに設定した実 IP へ接続しても、セッションに対する応答を禁止させる為、以下の各プロトコルに対するファイルをメモ帳で作成し、実 IP を記入し応答禁止の設定を行います。



SMTP 用 IP 禁止ファイル ：hiddensmtpip.dat

POP3 用 IP 禁止ファイル ：hiddenpopip.dat

IMAP4 用 IP 禁止ファイル ：hiddenimapip.dat

以上の設定が完了したら、各サービスを開始します。

サポート連絡シート　　お問合せ先　FAX　03-6856-9729

会社名および 担当部署名	
お名前	フリガナ：
ご住所	フリガナ： 都　道 府　県　　市・区・郡
	区・町・村
TEL　/　FAX	Tel. (　　)　　－　　Fax. (　　)　　－
E-MAIL アドレス	
製品名及び ライセンスキーNo.	
使用ＯＳ	何れかに〇をつけてください。 1. Windows server 2016　2. Windows server 2019　3. Windows server 2022 4.その他
メインメモリサイズ	

お問合せの内容（できるだけ詳しく記載をお願いいたします。）

(株)イー・ポスト　製品サポート宛

発売元 株式会社 イー・ポスト

〒169－0075

東京都新宿区高田馬場1－33－14　サンフラワービル

TEL. 03-5272-5386 FAX 03-6856-9729